



International Year of
CHEMISTRY
2011

「世界化学年 2011」報告書

2012 年 3 月

世界化学年日本委員会

「世界化学年 2011」 新たなる発展

世界化学年日本委員会委員長 野依 良治

(理化学研究所理事長、2001年ノーベル化学賞受賞者)



2011年は国際連合が定めた「世界化学年」でした。統一テーマ“Chemistry - our life, our future”のもと、新たな価値を創出しながら人類社会の持続、発展に貢献する化学社会がいま一度何をなすべきかを見つめ直す年となりました。そして我が国が戦後最大の危機に見舞われた年でもあります。東日本大震災により、かつて経験したことの無い深刻な事態がもたらされ、国民一人ひとりが、人類が歩む未来について深く考えさせられる一年でした。

我々には、人類が直面する様々な困難を解決あるいは軽減すべく、化学技術の発展に邁進し、豊かな人類社会の存続に向けた貢献が求められています。時代は何を求めているのか。化学に携わる者全員が、化学がもつ無限の可能性に誇りと責任をもって、自らの役割を果たさなければなりません。

この困難な状況にも拘わらず、International Year of CHEMISTRY 2011に登録された我が国の世界化学年記念事業数は97か国中、米国、英国に続いて世界第三位でした。改めて化学界、産業界の活発な活動を大変誇らしく思います。また、キュリー夫人読書感想文コンクールでは化学に憧れをもつ小中学生に接し、世界化学年フォーラムで未来を担う若い世代と想いを共有することができました。世界化学年の趣旨にまさに合致するものであり、関係各位の惜しみない努力に深く感謝する次第です。

本報告書は2010年8月に世界化学年日本委員会が発足して以来、世界化学年の終了する2011年12月までの主に国内での活動をまとめたものです。これらの活動が、多くの若い世代の化学への興味の喚起に繋がり、科学技術の新たなる発展を促し、豊かで輝ける未来社会が拓けることを祈念します。

目 次

「世界化学年 2011」 新たなる発展

世界化学年日本委員会委員長 野依 良治

目次

1. 世界化学年日本委員会の設立と活動	1
1-1 企画委員会および運営委員会活動	
1-2 事務局活動	
2. 我が国の世界化学年事業	5
3. 世界化学年日本委員会主催・共催事業	25
4. 各界の広報活動	29
4-1 新聞、テレビなど	
4-2 雑誌・学協会誌など	
4-3 ホームページ、メールマガジンなど	
5. 世界化学年を振り返って	33
	日本委員会副委員長 企画委員会正副委員長 実行委員会正副委員長
6. 参考資料：	39
1) 世界化学年日本委員会設立趣意書	
2) 世界化学年日本委員会委員	
3) 企画委員会委員および実行委員会委員	
4) 事務局連絡会メンバー	
5) 世界の国別世界化学年事業件数	
6) 日本の世界化学年活動年表	
7) 世界の主な世界化学年事業	

1. 世界化学年日本委員会の設立と活動

「世界化学年」は、IUPAC からの呼びかけに UNESCO が賛同し、国際連合に提案して総会本会議（2008 年 12 月）で決まったものである。日本学術会議化学委員会より日本化学連合に支援・協力の要請があり、2009 年に事務局を日本化学連合が引き受けることとなった。2009 年 8 月には世界化学年日本委員会発足準備会が発足し、その中に世界化学年日本委員会発足準備ワーキンググループを設け、日本化学会、日本化学工業協会、日本化学連合からそれぞれ数人のメンバーが参加し、西出宏之・日本化学連合副会長を中心に、合計 13 回の打ち合わせを行なった。設立趣意書、事業計画、組織、収支予算、日本委員会委員、日本委員会規約、世界化学年行事の取りまとめ、ホームページなどの案を作り上げ、第一回世界化学年日本委員会に提案した。特に、資金に関しては、化学オリンピックの時期と重なり、新たな募金はしないことを前提としたため、世界化学年日本委員会は事業・行事や事務諸経費の費用負担をせず、主催団体や事務局が費用の責任を持つという基本方針とせざるを得なかった。本ワーキンググループは日本委員会設立をもって解散した。

2010 年 8 月 6 日に第 1 回世界化学年日本委員会を化学会館にて開催した。日本委員会設立委員会を開催し、①日本委員会発足の趣旨及び発足準備報告 ②世界化学年日本委員会規約の説明及び承認 ③委員の承認及び委員長・副委員長の選任を行い、これに続いて、第 1 回日本委員会を開催し、①日本委員会・野依良治委員長挨拶 ②委員・オブザーバーの紹介 ③企画委員会・実行委員会の委員長・副委員長の指名 ④検討中の事業の概要報告 ⑤委員・オブザーバーとの意見交換を行なった。委員会終了後、記者会見を行い多くのマスコミ関係者が出席し、その様子は当日夕刻のNHKニュースで紹介された。



世界化学年日本委員会



記者会見

2011 年 3 月 26 日に第 2 回日本委員会開催（神奈川大学。日本化学会年会会場）を企画した。内容は、第 1 回日本委員会以降の活動報告と今後の行事・事業内容の紹介を行い、世界化学年を盛り上げるためのご意見をいただくことにした。しかし、3 月 11 日の震災のため、開催を中止した。そのため、当日の会議資料は委員およびオブザーバー全員に郵送し、ご意見をいただいた。

2011 年 12 月 17 日に日本における世界化学年を締めくくり、これまでの世界化学年の趣旨に沿った活動の継続と世界化学年をきっかけとして始まった新しい事業を継続

発展させるために、日本委員会主催の「世界化学年フォーラム「～Chemistry - our life, our future : 化学からのメッセージ～」を開催した。

2012年3月に「世界化学年2011」報告書を作成し、日本委員会の承認を得て関係各位にお送りすることにし、日本委員会は本報告書の作成承認をもって解散の予定である。本報告書は日本委員会の活動と日本委員会主催・共催事業を中心にまとめたものであり、各団体主催のものはそれぞれに報告が用意される予定である。

日本委員会の諸活動（委員会、事業、事務局など）は、その項目を時系列で並べ、日本における世界化学年活動年表（参考資料6）として、44ページに掲載した。

* 関連資料 :

日本委員会設立趣意書	参考資料 1 (39 ページ参照)
日本委員会委員	参考資料 2 (40 ページ参照)
プレスリリース	http://www.iyc2011.jp/pdf/riri-su100806.pdf
日本委員会・記者会見風景	http://www.iyc2011.jp/photo100806.html
日本委員会組織図	http://www.iyc2011.jp/organization-j.html

1-1 企画委員会および実行委員会活動

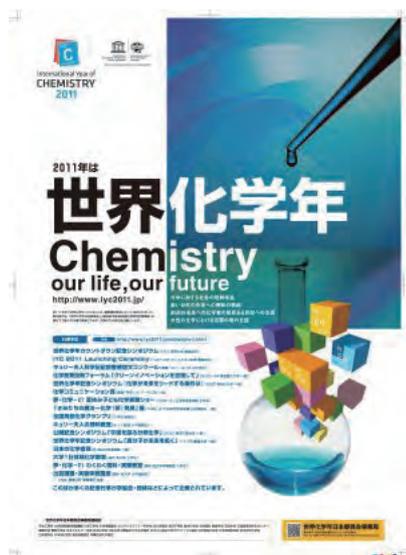
企画委員会は、世界化学年企画に関する方針の決定と世界（IUPAC など）との調整を行う目的で、また実行委員会は、新しい事業の準備や運営、広報、対外折衝、等々、また各団体が世界化学年の目的に賛同して開催する事業の支援及び取りまとめを担当する目的で設置された。

委員会は次の日時で順次開催した。2010年11月9日（第1回実行委員会）、2010年11月25日（第1回企画委員会）、2011年3月3日（第2回企画委員会・第2回実行委員会合同委員会）、2011年8月10日（第3回企画委員会・第3回実行委員会合同委員会）、2011年9月14日（第4回企画委員会・第4回実行委員会合同委員会）。

第1回委員会では、それぞれ委員会のミッションを確認し、活動内容を議論した。第2回委員会からは両委員会は合同で開催した。内閣府主催の科学技術フェスタ（12月17日～18日、国立京都国際会館）の開催内容の説明を受け、その中に世界化学年日本委員会主催の行事を開催することを決めた。

合同委員会委員3名（安平次委員、大野委員、加藤委員）と日本化学会近畿支部に協力をお願いし推薦いただいた委員3名（森 敦紀・神戸大学教授、松原 誠二郎・京都大学教授、田中 庸裕・京都大学教授）からなる合計6名のワーキングチームを設置し、行事の企画を行なった。世界化学年の締めくくりと世界化学年をきっかけとして新たなスタートをきることを目的として、野依良治・日本委員会委員長の特講演とそれを受けて委員長と高校生とのパネル討論を行うことを決め、2011年12月17日（土）15:15～17:00に世界化学年フォーラム～Chemistry - our life, our future : 化学からのメッセージ～を開催した。

また、世界化学年フォーラムでの会場及び付帯設備の使用料などの諸経費は、日本委員会は資金を持っていないため、多くの事務局連絡会メンバー団体（世界化学年の趣旨に賛同し、協力の意思を示された化学関係諸団体）から共催分担金として協力いただき、全額を賄うことができた。



世界化学年ポスター



ロゴシールのシート

広報については、世界化学年ポスターや世界化学年ロゴシールの作成と配布を行なった。ポスターは事務局連絡会メンバーの意見を聞き、内容及びデザインを決め、科学技術振興機構の多大な協力を得て作成した。これを、事務局連絡会メンバーをはじめ

め、大学化学系学科や博物館など全国的に送付し広報をお願いした。また、第2回企画委員会・第2回実行委員会合同委員会において、世界化学年の広報手段として名刺や封筒などに貼付する世界化学年のロゴシールを事務局連絡会メンバーから関係者への配布を決めた。ロゴシール5,000シートを無償で提供いただいた㈱リンテックのご協力に対し、後日、野依良治・日本委員会委員長名の感謝状をお渡しした。

* 関連資料：

世界化学年日本委員会各委員会委員 参考資料3 (41ページ参照)

世界化学年ポスター <http://www.iyc2011.jp/news/poster.pdf>

1-2 事務局活動

日本委員会事業推進のために、日本化学連合に事務局を置いた。事務局の主な役割は ①各委員会開催 ②化学関係団体が開催する事業の把握・調整 ③情報のネット化(ホームページ運用) ④広報活動である。

① 各委員会開催

* 日本委員会設立準備ワーキンググループ 13回

* 日本委員会 2回

* 企画委員会、実行委員会 合計5回

* 事務局連絡会 2回

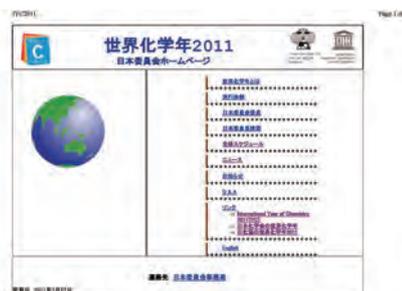
② 化学関係団体が開催する事業の把握・調整

世界化学年が2011年から始まるにあたり、化学関係諸団体に世界化学年の趣旨に賛同して事業を実施いただく協力依頼状を送付した。世界化学年の趣旨に賛同し、協力の意思を示された化学関係諸団体の事務局長に集まっていただき、2010年6月11日に第1回事務局連絡会開催した。世界化学年事業の企画実施のお願いをした。さらに、2010年12月24日に第2回事務局連絡会を開催し、化学関係諸団体が検討中の世界化学年記念事業の情報交換を行なった。また、事務局連絡会参加団体は徐々に増え、最終的には26団体になった。

「世界化学年」に関する世界各国の諸事業内容は IUPAC に設置されたホームページに逐次掲載された。各団体が行う IUPAC への行事登録申請事務業務を日本委員会事務局が代行することによって、日本における諸事業を把握と調整を行った。IUPAC への申請代行件数は 164 件に上った。事業終了後には簡単な実施内容（参加人数、ポスター、プログラム、ちらし、写真など）を提出いただき、これらをまとめ、日本における事業の全体像を一覧表とした。

③ 情報のネット化（ホームページ運用）

世界化学年の広報と日本における事業を時系列で紹介するために、世界化学年日本委員会ホームページ（日本語版と英語版）を 2010 年 8 月 6 日に開設した。IUPAC への事業登録申請の際に、事務局に提出いただいた日本語版と英語版の申請書をもとに、日本における世界化学年事業の全体スケジュール表を作成した。ホームページは関係者の手作りによるものであり、順次ブラッシュアップした。日本語版の各行事ページの事業・行事名称欄から IUPAC ホームページの該当 URL に飛び、また概要欄からその事業の実施内容に飛ぶように作りあげた。その後、日本化学会、日本化学工業協会も世界化学年のホームページを開設し、相互にリンクを張った。



世界化学年日本委員会ホームページ

④ 広報活動

科学技術振興機構主催のサイエンスアゴラが 2010 年 11 月 19～21 日に日本科学未来館および国際交流会館で開催された。日本委員会設立準備ワーキンググループはこれに参加することを決め、手作りのポスターやちらしを持って展示を行い、2011 年が世界化学年であることを発信した。また、世界化学年ロゴをデザインしたピンバッジは IUPAC より 3000 個購入し、各委員会、記者会見、事務局連絡会、日本委員会の主催あるいは共催事業などで配布し、多くの人に着用いただいた。特に若い人には好評であった。



ピンバッジの着用

2011 年 12 月 1 日に開催した世界化学年カウントダウン記念シンポジウムにおいて“若い世代の化学への興味の喚起”を目指した活動の一環として、過去の国際化学オリンピックメダリストの中から増田光一郎（2004 ドイツ大会）、服部陽平（2006 韓国大会）、廣井卓思（2007 ロシア大会）、田中成（2006 韓国大会、2007 ロシア大会）、小澤直也（2008 ハンガリー大会、2009 イギリス大会）、永澤彩（2009 イギリス大会）の 6 氏を世界化学年大使に任命した。2011 年 8 月 3 日のキュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール表彰式とレセプションに出席を依頼し、小中学生の受賞者への祝辞や展示の説明などで若い人（特に後輩たち）たちにふれあい、化学に興味を持ってもらう啓発活動をお願いした。

* 関連資料：

世界化学年日本委員会事務局連絡会 参考資料 4（42 ページ参照）
IUPAC の世界化学年ホームページ <http://www.chemistry2011.org/>
世界化学年日本委員会ホームページ <http://www.iyc2011.jp/>

2. 我が国の世界化学年事業

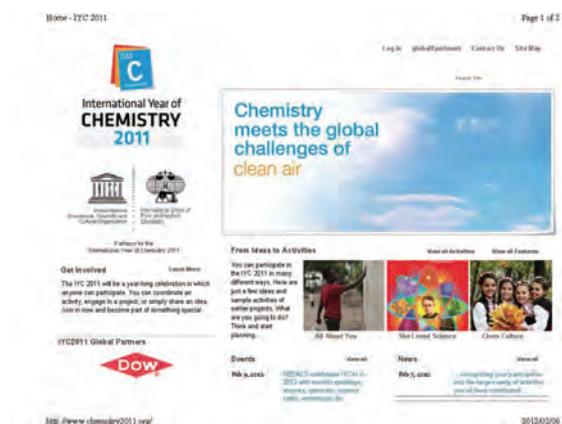
「世界化学年」に関する世界各国の諸事業内容は IUPAC に設置されたホームページに逐次掲載された。日本で各団体が行う事業の IUPAC への行事登録申請業務を日本委員会事務局が代行した。その際提出された申請書と事業終了後の簡単な実施報告書(参加人数、ポスター、プログラム、ちらし、写真など) もとに、我が国の世界化学年事業として次ページ以降の表にまとめた。

6 ページから 24 ページの表の見方について

表の項目は、開催日付・期間、事業のカテゴリ、事業名、主催者、開催地、参加者数、対象、事業概要である。事業概要欄からは、世界化学年日本委員会ホームページ上の該当事業ページに飛び、そのページの ①事業・行事名称欄からは IUPAC 世界化学年ホームページに飛ぶことにより該当事業内容を、また ②概要欄からは、その事業の資料(ポスター、プログラム、ちらし、写真など)のページに飛ぶことにより、実施内容を見ることができるよう設計した。

IUPAC 世界化学年ホームページには世界各国の事業件数が掲載されている。(参考資料 5) 総件数は 1400 件を越えており(2012 年 1 月 31 日時点)で、国別に見ると多い順に、米国 212 件、英国 154 件、日本 144 件、インド 139 件、カナダ 50 件などであった。関係各位の協力によって日本の登録事業件数は世界 3 位であった。さらに、日本における事業への参加人数はおおよそ 50 万人と大きな盛り上がりが見られた。

また、海外においても多くの事業が行われたが、世界の主な世界化学年事業は参考資料 7 にその内容を紹介した。



IUPAC 世界化学年ホームページ

* 関連資料 :

IUPAC 世界化学年ホームページ
世界の国別世界化学年事業件数
世界の主な世界化学年事業

<http://www.chemistry2011.org/>
参考資料 5 (43 ページ参照)
参考資料 7 (45 ページ参照)

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
通年	実験教室	やまがた未来科学プロジェクト:サイエンスカーと行くスクールミーティング	山形大学・FMやまがた	山形県	80	小・中・高校生	サイタセンターを中心に小・中・高校生への化学実験講座を行う。また、実験カーでの訪問化学実験毎月一回中学校を訪問し、理科(化学)実験を行い、その様子を放送した。 http://www.iyc2011.jp/yamagata-j.html
通年	見学会 実験教室	日化協世界化学年事業(実験教室、工場見学、講演会)	日本化学工業協会とその会員企業・団体	全国	12,000	学生、市民、化学関係など	実験教室や工場見学、講演会などのイベント、出版物などを通じて、世界化学年、化学と化学製品、化学産業を広くPRしつつ、世界化学年を祝う。日本化学工業協会とその会員企業・団体が参加。見学会、実験教室併せて58回開催 http://www.iyc2011.jp/nikkakyou-j.html
通年	実験教室	わくわく理科・実験教室	「夢・化学-21」委員会	東京都台東区	640	小学生	実験を通じて化学の不思議や面白さを体験してもらい、化学に興味を持ってもらうための実験教室。年間10回開催 http://www.iyc2011.jp/wakuwaku-j.html
通年	展示会 講演会	キュリー夫人の理科実験教室ドキュメントDVD「今甦るキュリー夫人の理科実験教室」	サイエンス スタジオ・マリー	全国	50	大人から子どもまで幅広い年齢層	マリー・キュリーの理科実験教室を現代に再現させようと奮闘する人間達の姿を通し、『時代を超えた科学技術者達の科学への想いと、科学の普遍性』を表現するドキュメントDVD。科学技術映像祭および様々な場所で映像を使用する。上映の規模:20名/回 http://www.iyc2011.jp/jan-rikakyou-situ-j.html
通年	図書出版	学校図書館向けブックガイドブックガイドNCL図書目録2011冊子へのロゴ使用	NCLの会	全国		学校司書、教諭、小中学生	全国小中学校に書店を通じて無料配布される学校図書館向けブックガイド(図書目録)にて、NCL加盟出版社の書籍から世界化学年と化学者にちなんだ絵本、書籍を「世界化学年2011NCLオリジナル選書」として紹介。子どもたちに化学のおもしろさと研究成果を啓蒙、紹介する特集コーナーにロゴの使用をご許可願いたい。* 一昨年の世界天文年には日本委員会の公式認定図書紹介と目録へのロゴ使用認可の実績あり。規模:50000部印刷、全国38000校に無料配布対象者: http://www.iyc2011.jp/bookguide-j.html
通年	プログラム	化学人材育成プログラム	日本化学工業協会(化学人材育成プログラム協議会)	全国		化学系大学院専攻、および同専攻にて博士後期課程を履修する学生	【目的】優秀な人材の大学院博士後期課程への進学を促し、化学人材の底上げによる研究開発力の強化、化学産業の国際競争力の維持・向上に貢献する。【内容】化学産業が望ましいと考える教育を行う大学院専攻の評価・選定と紹介、同博士後期課程へ進学する学生への奨学金給付、修士生の化学産業への就職支援、大学のカリキュラム改革への協力等、化学人材育成のための取組みを総合的に実施する。規模:不定(本プログラムに関係する人数規模は相当数にのぼると考えられる) http://www.iyc2011.jp/kagakuzinzai-j.html
通年	展示会 講演会	日化協世界化学年事業(展示会等)	日本化学工業協会とその会員企業・団体	全国	7,000	学生、市民、化学関係など	展示会等を通じて、世界化学年、化学と化学製品、化学産業を広くPRしつつ、世界化学年を祝う。展示会、講演会併せて17回開催 http://www.iyc2011.jp/144planttour-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
通年	講演会 実験講座	熊本大学理学部2011化学年 熊本大学夢科学探検 2011	熊本大学理学部	熊本県熊本市	170	小中高、一般	若い世代、特に小学校、中学校、高等学校の生徒に対する化学の啓発。大学でしかできない化学実験や演示実験を通して、化学の重要性、面白さを伝える。2011/4/1-2012/3/31 http://www.iyc2011.jp/apr-kumamoto-j.html
2010 12/1	シンポジウム 講演会	世界化学年カウントダウン記念シンポジウム	日本化学連合	東京都文京区	230	社会、研究者、 企業、学生	2011年に「世界化学年」が始まることを社会にアピールします。記念式典に次ぐ記念シンポジウム「百年を見据える最先端研究開発」では毛利 衛先生の講演に続き、「未来を拓く最先端研究」のテーマで片岡 一則(東大)、小池 康博(慶大)、瀬川 浩司(東大)、水野 哲孝(東大)の4先生の講演と「未来社会を支える我が社の科学技術」のテーマで三井化学、住友化学、昭和電工、三菱化学の講演があります。国際化学オリンピック活動紹介では渡辺 正先生(東大)の講演があります。 http://www.iyc2011.jp/dec-countdown-j.html
2011 1/15	講演会	キュリー夫人の理科教室 「紙芝居とミニ実験トーク ショー」	サイエンススタ ジオ・マリー	東京都千代田 区	189	子ども、若い女 性、大人(保護 者)、一般市 民、	会場は科学技術館4階「宇宙の広場」。1回15名予定、1回30分で午前1回と午後3回 合計4回公演予定。対象者は子どもとその保護者。キュリー夫人の紙芝居とIYCTーク、キュリー夫人の理科教室から真空と空気、風を中心にミニ実験ショー。他に2月15日にも開催 http://www.iyc2011.jp/jan-rikakyousitu-j.html
1/18	シンポジウム	“The IYC International Women’s Networking Event in Japan”	日本化学会 男女共同参画 推進委員会	東京都千代田 区	25	会長、委員、そ の他若手研究 者	2011年3月28日の第91回日本化学会春季年會に開催予定の第11回シンポジウム“未来を拓く社会からのメッセージ～男女が共に生きる取組とは～”について討論後、マリー・キュリーのノーベル化学賞受賞100周年と2010年の日本人化学者根岸英一氏と鈴木章氏の受賞を祝して、ティーパーティを開催し、本会の今後の発展と若手育成についても議論 http://www.iyc2011.jp/jan-danzuosannkaku-j.html
1/29	実験教室	サイエンス広場	触媒学会	大阪府大阪市	555	一般市民、教 育関係者、大 学生、中高生、 小学生など	パネル、ビデオ、サンプル展示、そして簡単なデモ実験を通して、触媒・化学への興味をもってもらい、理解を深めるための体験型イベント。対象は主に小中高学生とその保護者。触媒学会西日本地区の先生方が、実験ショー、展示説明、触媒モデル組立て指導を企画・実施 http://www.iyc2011.jp/jan-science-j.html
1/29	実験教室	小学生向け一日理科実 験教室	東京学芸大学 教育実践研究 支援センター	東京都小金井 市	5	大学生、小学 生	大学近隣の小学生を大学に招待し、科学実験教室を開催する。なお、科学教室は、企画、運営ともに東京学芸大学の学生が主体的に行う。 http://www.iyc2011.jp/jan-rikazikken-j.html
2/7	対話集会	レスポンシブル・ケア 愛 知、山口西、新潟地区 地域対話	日本化学工業 協会	小牧市、宇部市 中条市、	268	一般市民	レスポンシブル・ケア 愛知、山口西、新潟地区 地域対話 その他11/19(山口西)、10/15(新潟)にも開催 http://www.iyc2011.jp/feb-138aichi-j.html , http://www.iyc2011.jp/nov-142yamaguchi-j.html , http://www.iyc2011.jp/oct-141niigata-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
2/15-3/15	展示会	「世界化学年書店フェア」 (化学の啓蒙活動から発行図書の普及)	丸善出版(株)	全国		大学関係、研究者、学生、化学に関心を持つ人	丸善の発行する関連図書の陳列販売を行い、化学とつながりをもつ教育者、ビジネスマンなどの読者に向けて展開。全国約50書店程度を予定。ポスター、パネル、シール、POP等でのロゴを使用し、店頭で化学の理解をアピールします。 http://www.iyc2011.jp/feb-bookstore-j.html
2/28	図書出版	出版「化学のはたらき—衣料と繊維がわかる—」	日本化学会	全国		市民、教員、学生、企業従業員	出版物を通じて、化学の普及を図る。化学のはたらきシリーズとして3巻まで発行済み。第4巻は衣料と繊維について、高校生や学生、市民や企業従業員などにもわかりやすいような内容としている。規模：4000冊 http://www.iyc2011.jp/feb-tosyosyuppan-j.html
3/1-12/31	シンポジウム	映画「TAKAMINE」の上映	Rei23 Inc	全国		一般市民	本作は、消化酵素タカザスターゼの発見、止血剤として有名なアドレナリンの結晶化など、ノーベル賞級の偉業を果たした化学者～高峰譲吉を描いた映画。日本国内のみならず、アメリカでの公開も予定している本作を多くの方に観て頂く事により、鎖国が明けて間もない小国日本を、化学という分野において世界に知らしめた高峰博士の偉業を知って頂き、子供たちには化学というものに興味をもち、また若者には海を渡る勇気を持ってくださるようにと願い公開いたします。 http://www.iyc2011.jp/takamine-j.html
3/9-3/10	国際会議	第5回 触媒科学国際シンポジウム(MICS2011)	MICS2011組織委員会(三井化学)	千葉県木更津市	1,600	一般市民、化学者・化学技術者、教育関係者、大学生、中高生	産学官、国内外での触媒に関する独創技術創出による触媒科学発展を積極的に推進するため、研究発表と議論の場を世界に提供する。【テーマ】～持続可能な社会を実現する触媒科学～ 環境調和型社会を目指した高機能材料・物質を創出する触媒科学の現状と 将来の可能性について。 http://www.iyc2011.jp/mar-catsympo-j.html
3/14	研究発表会	工業高等専門学校生 化学研究発表会	日本化学会 近畿支部	大阪府大阪市	26	化学・科学技術者、教育関係者	工業高等専門学校化学系学科において優秀学生表彰を受けた学生による研究発表会 http://www.iyc2011.jp/mar-kousenn-j.html
3/14-3/15	シンポジウム	第26回固体飛跡検出器研究会	固体飛跡検出器研究会	兵庫県神戸市	40	一般市民、教育関係者、大学生、中高生	高エネルギー重イオンタイプの放射線の通り道を化学処理で可視化する固体飛跡検出器の基礎と、宇宙放射線から重粒子線治療に関わる、広い範囲の応用に関わる研究発表会を開催する。キュリー夫人の業績をふり返る講演を含む。 http://www.iyc2011.jp/mar-kotaihiseki-j.html
3/16	学会・年会	日本化学会第91春季年会(2011)	日本化学会	神奈川県横浜市		10代～80代まで。化学関係のアカデミア、産業界に属する者	化学に関する学術の進歩普及・産業の発展及び生活の向上を狙いとして、およそ化学という言葉が包括するあらゆる学問領域や分野からの研究者が一同に会し、日頃の研究成果を発表する場であり、その討論を通じ学術交流を奨励・促進する場。参加者数 約8,500名、展示会出展数 約90社講演数 約6,000件、使用会場数 約80会場 http://www.iyc2011.jp/mar-nikka-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
3/17	シンポジウム	理系白書シンポジウム 「化学の力が世界を変える」	毎日新聞社	東京都新宿区	震災のため中止	一般市民、化学関係、学生	日本が世界に誇る化学分野での技術力の原動力を探ることをテーマとしたシンポジウムを、未来の研究者となる学生を中心とした層を対象に開催する。 http://www.iyc2011.jp/mar-rikeihakusyo-j.html
3/17-3/18	講演会	2011 GSC Workshop ~ 環境と共に生きる化学~	新エネルギー・ 産業技術総合 開発機構 日本化学連合	東京都千代田 区	震災のため中止	市民、化学関係、学生	NEDOで推進しているグリーン・サステイナブルケミストリー(GSC)の研究開発について、開発状況を報告します。また、国内外のGSCに関する取り組みや、環境共生を目指した化学産業の努力に関して理解を深めていただくため、国際的に著名な研究者による招待講演や、産学官の第一線で活躍される方々をパネリストに迎えたパネルディスカッションを予定しています。 http://www.iyc2011.jp/mar-2011gsc-j.html
3/22-3/24	シンポジウム	化学工学会 第76年会 化学産業技術フォーラム	社団法人 化学工学会	東京都小金井 市	震災のため中止	大学教員、大学院学生、化学関係企業社員等	地球温暖化問題の解決に向け、「グリーンイノベーションを目指して」を主テーマとし、化学工学会としての行動と社会に対する提言を目指して、産学官が連携して種々のシンポジウム http://www.iyc2011.jp/mar-kagakukougaku-j.html
3/26	シンポジウム 講演会	世界化学年記念公開シンポジウム	日本化学会	神奈川県横浜 市	震災のため9月28日に延期	一般市民、化学関係、学生など	日本化学会春季年会の期間中に、「化学が未来をリードする条件は？」をメインテーマに、理化学研究所の野依理事長と三菱ケミカルホールディングスの小林社長の基調講演と、両者に3~4名の論客を交えたパネル討論を行う。震災のため延期 http://www.iyc2011.jp/mar-iyccsympo-j.html
3/26	図書出版	「化学」の啓発書『化学(バケガク)で何ができるのかー未来につながる「化学」の架け橋ー』の発行	(社)有機合成化学協会	全国		高校生以上の一般の人々	化学をわかりやすく解説した一般向けの啓発書。構成は前半が過去の化学より生じた成功物語、後半は主としてこれから実用化が期待される将来展望事項となっている。学術・応用技術としての化学(有機合成化学)への一般社会の理解と興味を高めることを目的としている。 http://www.iyc2011.jp/mar-keihatusyo-j.html
3/26	実験教室	春休み子ども化学実験教室「水から生み出す未来の「ちから」~色々な液体から燃料電池をつくろう!~	科学技術振興機構	愛知県名古屋 市	20	小学4年生~中学3年生	世界化学年を記念して、子ども向けの春休み化学実験教室を開催。「水から生み出す未来の『ちから』~色々な液体から燃料電池をつくろう!」をテーマに、当日は未来のエネルギーとして期待されている燃料電池を制作します。 http://www.iyc2011.jp/mar-fuel-battery-j.html
3/28	研究発表会	第28回化学クラブ研究発表会	日本化学会 関東支部	神奈川県横浜 市	震災のため中止	高校生・中学生	理科クラブや化学クラブで活躍する中学・高校の生徒が一堂に会して、日頃の研究成果を発表する機会を設け、生徒および指導教員の相互研修と交流を深めることにより、理科教育の充実・発展を図ることを目的としている。 http://www.iyc2011.jp/mar-scienceclub-j.html
3/30	講演会	電気化学会78回大会特別講演会 世界化学年特別講演会 市民公開講座	電気化学会、 横浜国立大学	神奈川県横浜 市	震災のため中止	市民、化学関係、学生など	水素エネルギー、電気自動車、地球温暖化などグリーン・イノベーションと密接に関係する話題を取り上げ講演頂き、そのフロンティアと電気化学の関連を議論 http://www.iyc2011.jp/mar-dennkikagaku-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
3/30	講演会	電気化学会第78回大会 世界化学年特別企画: キュリー夫人の生涯	(社)電気化学 会第78回実行 委員会	神奈川県横浜 市保土ヶ谷区	震災のため中止	電気化学会会 員市民、化学 関係、学生	電気化学会大会会場にて「キュリー夫人の生涯」のDVD並びに「学問と情熱」本多静六のDVDの上映会を開催し、若い世代や女性研究者をはじめとする研究者がより活性化する機会とする。 http://www.iyc2011.jp/mar-life-j.html
3/31	討論会	昼食交流会 新しい時代の マリー・キュリー	電気化学会 男女共同参画 推進委員会	神奈川県横浜 市	震災のため中止	30代~60代、 化学関係、学 生など	女性科学者の先駆者でおられ、ノーベル物理学賞とノーベル化学賞を授賞されたマリー・キュリーの生涯をまとめられたDVDを用い紹介し、化学者および女性研究者の観点から討議する。 http://www.iyc2011.jp/mar-curie-j.html
4/1-9/30	図書出版	『日本理学書総目録刊行 会』の新刊フェア	『日本理学書 総目録刊行 会』(幹事出版 社11社)	全国		化学者・化学技 術者、大学生	当会は、日本の理学系出版社の発行する出版物を一同に集める総合図書目録の発行(年1回)と新刊図書目録(3月・9月)を発行。今回、新刊目録「春」号とポスターを作成し、同時に書店フェアも実施。目録は大学の教授、准教授ほか約10,000名に配布。また全国の約50書店で新刊フェアを予定し、化学への興味を興し「世界化学年」をアピールします。 http://www.iyc2011.jp/apr-shinkan-j.html
4/1-12/31	展示会	世界化学年 出版連動 フェア	(株)トーハン	全国		一般読者(学 生、研究者も含 む)	世界化学年に連動して『化学』をテーマにした店頭フェアを実施。世界化学年の活動の認知を広めるとともに出版物を通して一般読者に、『化学』に興味を抱いてもらう。 http://www.iyc2011.jp/bookfair-j.html
4/11-6/15	展示会	世界化学年:化学関連図 書展示&元素クイズ	四街道市旭中 学校図書室	千葉県四街道 市	370	旭中学校生徒 および教員	中学生に化学に対する興味を持ってもらうために、世界化学年のことを知らせ、化学に関する図書を展示・利用してもらう。図書室内に元素周期表を展示し、元素クイズを実施する。 http://www.iyc2011.jp/periodictable-quiz-j.html
4/12-6/12	展示会 講演会	かはく・たんけん教室「な るほど!プラスチック~ プラでレブリカ作り~」	独立行政法人 国立科学博物 館	東京都台東区	3,256	小中学生、大 学生、一般市 民	内容:私たちの生活の中には多くのプラスチック製品があることと、用途に合わせてプラスチックの素材を使い分けていることに気づく。また、低融点樹脂を使いレブリカを作ることと、その性質や特質への理解を深める。 http://www.iyc2011.jp/kahakutanken-j.html
4/18-4/24	ポスター作成	平成23年度(第52回)科 学技術週間	内閣府・文部 科学省	全国	震災のため中止	来館者、教員、 生徒等	科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深めていただき、日本の科学技術の振興を図ることを目的とした平成23年度(第52回)科学技術週間を周知するポスターに、世界化学年の宣伝をするため使用 規模:全国の学校、科学館等へ75,000部を配布予定 http://www.iyc2011.jp/apr-kagakusyukann-j.html
4/20-8/3	賞・コンクール	キュリー夫人科学伝記読 書感想文コンクール	日本化学連合	東京都目黒区	470	小学生、中 学生	小学生、中学生を対象として、化学より身近に感じてもらうことを目的に、「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」を行った。 http://www.iyc2011.jp/curie-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
4/29-1/31	展示会	企画展「大阪化学の過去・いま・未来」	大阪市立科学館	大阪府大阪市	300,000	一般市民	大阪は化学の町。日本初の化学の学校「舎密局(せいみきょく)」が作られたのも大阪。そして江戸、明治の時代から、化学にまつわる会社が大阪からたくさん誕生し、現在も国内そして世界で活躍を続けています。そんな数ある大阪生まれの化学メーカーの中からさまざまな分野の6社にご協力いただき、大阪で生まれた化学、大阪で進化を続ける化学を、各社の貴重な実物資料を通して、【過去】【いま】【未来】の視点でご紹介します。 http://www.iyc2011.jp/osakakagaku-j.html
5/14	実験教室	大人のための化学実験教室	法政大学自然科学センター	東京都千代田区	20	大学生以上、参加者層:市民、小・中学校教員	一般市民の科学リテラシーの向上を目的とする。高校の化学実験授業のテーマなどを用いて、科学の面白さや大切さを市民に広く知ってもらおう。規模:ひとつの教室。(2011年にあと5回程度開催予定) http://www.iyc2011.jp/may-otonayouzikken-j.html
5/18	研究発表会	第16回石油学会ジュニア・ソサイアティ若手研究者のためのポスターセッション	石油学会	東京都江戸川区	300	石油学会関係(学生、教員、技術者)、一般市民	JPIJSは、石油学会の若手研究者が代表者となり、若手会員がその創意工夫を生かして勉強会や講演会など自由な活動を行っている。ポスターセッションは、毎年春の学会の年次研究発表会に併設して開催し、若手研究者の成果発表の機会として活用されている。 http://www.iyc2011.jp/may-jpi-j.html
5/20	講演会	講演会「観る、測る、そして知るー最先端計測・分析技術が拓く世界ー」	日本学術会議化学委員会分析化学分科会	東京都港区	174	化学関係、学生、市民	最先端計測・分析技術が拓く世界として、世界をリードする研究を行っておられる3名の先生方に講演して頂く。また、世界的にも注目されている。はやぶさが持ち帰った宇宙物質の最先端計測分析についても講演して頂く、世界化学年にふさわしいイベントである。(1) 開催挨拶 日本学術会議 化学委員会 委員長 藤島 昭 (2) 講演 (a) 東京大学 名誉教授 二瓶 好正「先端計測・分析技術による知的創造基盤の強化」(b) (株) 島津製作所フェロー 田中 耕一「質量分析で医療・創薬に貢献する」 http://www.iyc2011.jp/may-kouennkai-j.html
5/22-5/26	国際会議	IUPAC2011国際分析科学会議(ICAS2011)	日本分析化学会、IUPAC	京都府京都市	1,100	化学者・化学技術者 大学生	日本分析化学会とIUPACとの共同主催で10年ごとに日本で開催される分析科学に関する国際会議で、世界トップレベルの研究者が一堂に会し、分析科学の発展とその応用展開を図ることを目的としている。 http://www.iyc2011.jp/may-iupac2011-j.html
5/29	実験教室	万博公園・理科実験野外教室	青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会野外実験班	大阪府吹田市	3,000	小・中学生および保護者(一般市民)	万博公園の雄大な自然の下、子どもたちを対象に理科実験教室を行う。通常この種の実験実験教室は屋内で行うのが通例だが、野外でないとできない実験(巨大シャボン玉、パロケット等)を行うのが特色である。 http://www.iyc2011.jp/may-outdoor-j.html
6/2-6/3	シンポジウム	第11回GSC シンポジウム	GSC ネットワーク	東京都新宿区	300	大学・国研の研究者、企業技術者、学生	産学官の関係者が一堂に会し、環境と共生し持続可能な社会の実現を目指す化学技術であるGSCに関する最新情報を講演ならびにポスター発表にて報告 http://www.iyc2011.jp/jun-gscsympo-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
6/2-11/17	講演会	化学への招待 高等学校出前講演会	日本化学会 近畿支部	近畿地方	365	教育関係者、 中学生、高校生	開催を希望する高等学校 約5校で高校生を対象に出前講演会を行います。化学分野の第一線でご活躍中の学者・研究者の方々に、化学にかける夢・化学の魅力高校生にお話し頂きます。 http://www.iyc2011.jp/jun-kagakuhenoshotai-j.html
6/3-6/15	研修会	STNユーザーミーティング	化学情報協会	つくば、千代田、 富山、豊中、 広島	320	化学者、化学 技術者	世界的な科学オンライン情報サービスであるSTNのユーザーに、主に化学関係について、既存ファイルの強化、ならびに新規ファイルの紹介を行い、その利用と普及を図る http://www.iyc2011.jp/jun-stn-j.html
6/8	シンポジウム	繊維学会・世界化学年記念シンポジウム2011	繊維学会	東京都江戸川区	150	繊維関係(学生、 教員、技術者)、 一般市民	繊維化学に造詣の深い3名の研究者をフランス、中国、日本からお招きし、国内外からみた繊維技術と繊維化学の現状と将来展望に関する講演会を開催する。繊維学会年次大会会期中ではあるが、学会員のみではなく、一般市民にも公開し、広く繊維と化学・技術について考える機会を提供する。 http://www.iyc2011.jp/jun-sfst-j.html
6/10	講演会	市民公開講座第89回分子科学フォーラム	分子科学研究所	愛知県岡崎市	250	一般市民、化学者、 教育関係者、	自然科学研究機構長の佐藤勝彦先生を講師とし、「宇宙の創生とマルチバース」について、一般向けに分かりやすくお話しいただく。 http://www.iyc2011.jp/jun-molscience-j.html
6/11	研究発表会	第13回近畿地区化学教育研究発表会	第13回近畿地区化学教育研究発表会	大阪府大阪市	26	一般市民、化学者・ 化学技術者、 教育関係者	小・中・高・大・高等専門学校等で理科や化学教育に携わる先生方による研究発表会。活発に情報や意見の交換を行い、近畿地区の理科(化学)教育の活性化を図ることを目的としている。 http://www.iyc2011.jp/jun-kagakukyoku-j.html
6/18-8/31	市民講座	世界化学年2011記念「花火の化学展」	大阪市立科学館	大阪府大阪市	100,000	一般市民	花火の美しい色や光は、化学のおかげです。珍しい花火や花火に使われている薬品などのさまざまな実物資料で、花火と化学の深い関係をご紹介します。 http://www.iyc2011.jp/hanabi-j.html
6/20	国際会議	日独化学シンポジウム Germany-Japan Chemistry Symposium	日本化学会、ドイツ化学会	東京都目黒区	400	一般を含む化学関係者	日独の著名な研究者を招いた特別シンポジウムを日独化学会の共同主催にて開催。演者にはノーベル化学賞受賞の野依良治、鈴木 章教授等を始めProf. Sharpless、Prof. Michel他。著名な化学者10名によりシンポジウムを開催する。 http://www.iyc2011.jp/jun-GJSympo-j.html
7/1-7/2	シンポジウム	化学史研究発表会(年会)	化学史学会	青森県弘前市		化学史学会会員および一般	特別講演:「空白の27時間—歩兵第五連隊八甲田雪中行軍遭難事件の謎—」、「原子核分裂の夜明けから—木村健二郎の足跡—」 シンポジウム:「芝哲夫氏追悼—日本への化学導入史研究の到達点と今の課題」 他 一般研究発表9件 http://www.iyc2011.jp/jul-kagakusi-b-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリ	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
7/1-10/28	賞・コンクール	化学コミュニケーション賞	日本化学連合	東京都千代田区	28	表彰の対象団体、個人	わが国において、「化学」に関する社会への啓発活動、情報発信を通じ、「化学」に対する社会の理解を深めることに貢献した業績を顕彰した。 http://www.iyc2011.jp/prize-j.html
7/15	講演会	岐阜市生涯学習センター主催講座「マリー・キュリーの挑戦～科学・戦争・そして革命～」	岐阜市生涯学習センター	岐阜県岐阜市	180	市民	一般市民を対象に、世界化学年を記念して「マリー・キュリー」の生き方に着目した講座を開催する。市民の化学への興味、知識を増進させ、豊かな生涯学習社会の実現を図る。7月22日に別途開催 http://www.iyc2011.jp/jul-lecture-j.html
7/16	実験教室	科学実験フェア2011	日本大学文理学部	東京都世田谷区	785	小学生および父兄	小中学生を対象に日本大学文理学部の理科系学科が総出演で科学実験の不思議さ・楽しさ・面白さを紹介。見学型だけではなく体験型の企画もあり。サイエンススタジオマリーの「キュリー夫人の理科教室」の客演も予定。 http://www.iyc2011.jp/july-kagakuzikken-j.html
7/21-8/31	講演会 実験教室	特別展 第33回夏休み塩の学習室「さぐれ！キミのからだの中の塩」	たばこと塩の博物館	東京都渋谷区		小学3～6年生・中学生・保護者、その他一般	からだの中の塩の役割を参加型展示で紹介。その他、塩の性質を紹介する実験ショー、塩の実験ワークショップ、実験を紹介する講演会など、自由研究向けのヒントを提供。 http://www.iyc2011.jp/july-salt-j.html
7/21-8/31	展示会 講演会	世界化学年 2011 特別企画 マリー・キュリー ポスター展	名古屋大学 物質科学国際研究センター フランス キュリー博物館・キュリー研究所	愛知県名古屋市	1,000	一般市民、教育関係者、中高生、小学生	パリのキュリー博物館とキュリー研究所が、世界化学年を記念して制作したポスター。その日本語版を名古屋大学物質科学国際研究センターが作成。各国に1セットしか送られないという貴重なポスター展が、名古屋大学で開催されます。 http://www.iyc2011.jp/july-poster-j.html
7/23	実験講座	日本大学理工学部物質応用化学科・一日体験化学教室	日本大学理工学部物質応用化学科	東京都千代田区	50	高校生(専門学校生、予備校生、引率の先生方も可)	高校生の皆さんに化学への興味を持ってもらうため、身の周りとの関係の深い計8テーマ(材料化学分野3テーマ、環境化学分野2テーマ、生命化学分野3テーマ)から一つを選んでもらい、参加者ご自身に実験を体験して頂く。 http://www.iyc2011.jp/july-oneday-nichidai-j.html
7/23	講演会 実験講座	大人のための化学実験教室	法政大学自然科学センター	東京都千代田区	50	大学生以上、参加者層:市民、小・中学校教員	一般市民の科学リテラシーの向上を目的とする。高校の化学実験授業のテーマなどを用いて、科学の面白さや大切さを市民に広く知ってもらう。テーマ「染料の化学」 http://www.iyc2011.jp/may-otonayouzikken2-j.html
7/29-7/30	実験講座	化学への招待 1日体験化学教室 東邦大学夏休み理科教室	東邦大学	千葉県船橋市	50	中高校生	以下の2種類の体験実験を行います。Aコース:光で色が変化する化合物を合成しよう。Bコース:湖沼の栄養レベルを測ってみよう。 http://www.iyc2011.jp/july-oneday-tohodai-j.html
7/29-7/31	実験講座	サイエンス講座2011 身のまわりの化学物質について学ぼう	福岡教育大学化学教職員グループ	福岡県宗像市	50	中学生および高校生	化学実験6テーマを3日間にわたって体験する。「光と化学、オリジナル消しゴムを作ろう、身の回りのものを使った電気分解と電池の実験、果物の香りを作ろう、自分だけの色を作ろう、化学反応による色の変化を観察しよう」 http://www.iyc2011.jp/july-scilec-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
7/30	実験講座	化学への招待 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス1日体験化学教室	神奈川大学理学部化学科	神奈川県平塚市	64	中高校生	大学の実験室で大学の設備を使って実験をすることにより、化学に対する強い興味・関心呼び起こし、化学を学ぶことに対するモチベーションを高める。 http://www.iyc2011.jp/july-oneday-kanagawa-j.html
7/30	講演会 実験講座	城西大学1日体験化学教室	城西大学理学部化学科	埼玉県坂戸市	10	高校生	演示実験:空気を構成する気体のマイクロ波放電実験、一回の変化では終わらない化学反応、色が変わりながら起るフラスコ内噴水、蒸発皿で巨大持続炎色反応。体験実験:発熱及び吸熱溶解、二酸化炭素を化学する、各種市販粉の違いを調べる。液体窒素を用いる劇的状態変化や液体酸素作り等 http://www.iyc2011.jp/july-josai-univ-j.html
8/1-8/3	講演会	名古屋大ES館開館記念 野依研究室特別講座「不斉とは～基礎講座」	名古屋大学高等研究院	愛知県名古屋市		高校生相当、大学生	名古屋大学ES館開館を記念して、野依教授および研究室スタッフが「不斉～基礎講座」を実施。1日は野依教授と昼食をとりながら自由に会話を楽しめるランチョン・フォーラムです。 http://www.iyc2011.jp/aug-chirality-j.html
8/4	実験教室	洋学資料館の楽しい夏休み教室江戸時代の化学書からの実験江戸時代の電池づくりにチャレンジ!	津山洋学資料館・津山工業高等専門学校	岡山県津山市	24	教育関係者、中高生、小学生	日本初の本格的化学書『舎密開宗』より、著訳者:宇田川榕菴が行ったボルタ電池の実験の再現実験を行う。 http://www.iyc2011.jp/aug-volta-j.html
8/4	講演会 実験教室	授業で使える化学実験会	日本分析化学専門学校	大阪府大阪市		中学校・高校理科教諭	1)実験①石鹼を入れても泡立たない水ってどんな水? ②プチカプセルを作って酸性・アルカリ性を調べよう ③捨てないでレシート! 実験素材になりますよ! ④ピカッと光る、ミラクル溶液 ⑤サッと消える忍び文字! [酸化還元反応] 2)化学情報交換会 参加頂いた先生に、情報交換をご希望の化学の単元毎のグループに分かれて頂き、各高校の授業内での実験・実習に関する情報を交換。 http://www.iyc2011.jp/aug-kagakuzikken-j.html
8/5	講演会 実験講座	化学への招待 弘前大学一日体験化学教室	日本化学会東北支部、弘前大学大学院理工学研究科	青森県弘前市	108	高校生(中学生・一般も可)	午前:講演「有機物が燃えなくなったら?」 澤田英夫・弘前大学理工学研究科教授が講演を担当 午後:化学実験 1テーマあたり10名定員 A)「果物のおいを作る・ルミノールを用いた発光反応」 B)「色で測る!! 一ドリンク剤中の鉄の定量-」 C)「高分子ゲルの不思議」 D)「色が変わる無機高分子」 E)「青森県の植物を利用した香料・化粧品科学」 F)「コンピューターで分子を考えてみよう」 http://www.iyc2011.jp/aug-oneday-hirosaki-j.html
8/5	講演会 実験講座	すぐできる!なるほど・ザ・化学実験会	日本分析化学専門学校	大阪府大阪市	32	教育関係者、中高生	(1) 講義:化学講演 (2) 実験:①化学で工作! 変化するプラスチック ②チョークが絵の具に大変身! ③虹色バブル ④ホタルの光を自由自在に! http://www.iyc2011.jp/aug-naruhodo-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
8/5-8/6	展示会 講演会	岡山大学環境理工学部 環境物質工学科オープン キャンパス	岡山大学環境 理工学部	岡山県岡山市	115	高校生, 高校 教諭	岡山大学環境理工学部環境物質工学科のオープンキャンパスにおいて、高校生を対象に化学をベースとする学科内容の説明と材料やエネルギーに関連した化学実験を体験させ、高校化学への理解を深めるとともに興味を喚起する。 http://www.iyc2011.jp/aug-opencampus-okayama-j.html
8/6	市民講座	市民公開講座 第90回 分子科学フォーラム	分子科学研究 所	愛知県岡崎市	120	一般市民、化 学者・化学技術 者	サッポロビール株式会社・取締役執行役員を講師とし、「ビールのアート&サイエンス - 麦とホップが生み出すおいしさの秘密 -」について、一般向けに分かりやすくお話しいただく。 http://www.iyc2011.jp/aug-bunshiken-j.html
8/7	実験講座	夏休み子どもサイエンス 2011	大分県理科・ 化学教育懇談 会, 日本化学 会九州支部化 学教育協議 会, 大分大学	大分県大分市	1,000	小学生、保護 者	本事業は「大分県理科・化学教育懇談会」が行っている、小学生の親子を対象とした理科の実験体験スクールです。親子で自然科学への興味・関心を深めてもらうことを目的としており、今年度も、化学から生物まで幅広く自然科学に興味を持ってもらえるような17テーマの実験を用意しています。 http://www.iyc2011.jp/aug-kodomosci-j.html
8/16	講演会	第58~60回 サイエンス・ カフェ札幌	北海道大学科 学技術コミュニ ケーション教育 研究部門 (CoSTEP)	北海道 札幌市	480	一般市民	本事業は、北海道大学の研究者をゲストに迎えて、参加者からの発言も交えて語り合う対話の場を作り出すものです。対象回は触媒化学、有機化学などに焦点を当て、対話の場を通じた理解増進や支援を行います。その他、10/1と11/19も開催 http://www.iyc2011.jp/costep-j.html
8/16	国際会議	ゴールドシュミット2011 特別セッション Fukushima Review	Goldschmid Conference 2011	チェコ プラハ	200	研究者、大学 院生	福島原発事故の環境への影響について、どのようなモニタリング体制が布かれているのか、初期分析結果から原子炉破壊状況、環境汚染の現状等を紹介する。 http://www.iyc2011.jp/aug-goldschmid2011-j.html
8/19-9/14	展示会	世界化学年企画展示	諫早市立諫早 図書館	長崎県諫早市	1300	市民、化学関 係、学生	世界化学年に因んで、化学やキュリー夫人に関する資料を展示し、利用者へ世界化学年の周知を図り、化学の本への興味につなげる。 http://www.iyc2011.jp/aug-isahaya-j.html
8/20	研修会	化学史研修会	化学史学会	東京都港区		中学高校理科 教員、一般市 民、化学関係 者	中学高校理科教員が化学史をはじめ科学史の視点を理科の授業に取り入れることをサポートするため、また一般の方々に化学の歴史についての興味を喚起するために開催。内容:3つのテーマの講演:「理系の扉を開いた日本の女性たち」、「戦前期日本のノーベル賞候補:化学賞、生理学・医学賞を中心に」、「ラヴォワジエと質量保存の原理」 http://www.iyc2011.jp/aug-kagakusi-a-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
8/20-8/21	実験教室	「青少年の理科実験工作教室」第21回 青少年のための科学の祭典 大阪大会2011 サイエンス・フェスタ	青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会	大阪府大阪市	25,000	小・中学生および保護者(一般市民)	大阪・梅田のハービスホールにおいて、子どもたち対象の科学実験教室を行う。全体で80のブース・工作教室。ステージショーを用意し、関西での「青少年のための科学の祭典」としては最大規模のものである。また、8/20午後には大阪大学茶谷直人先生をお招きして、クロスカップリングに関する後援をいただく予定である。 http://www.iyc2011.jp/aug-osakascience-j.html
8/22-12/28	展示会	カードゲーム ケミストリー・クエスト のイベント開催	株式会社リバナ	東京都新宿区	100	小学1年生～一般	小学生が開発した化学結合を楽しく学べる教材であるカードゲーム ケミストリー・クエスト初級版を制作すると同時に、新宿区のカフェで定期的に化学を楽しむ体験ができる場を提供する http://www.iyc2011.jp/aug-lvns-j.html
8/26	実験講座	『筑波大学一日体験化学教室 —筑波大学化学類体験学習—』	筑波大学	茨城県 つくば市	100	高校生	「筑波大学一日体験化学教室」は、高校生の皆さんが化学実験を通して、化学の楽しさ、不思議さを体験する機会を作ろうという試みです。参加する皆さんには、同じ化学に興味を抱く各地の高校生の仲間と一緒に、化学の実験を楽しんでもらいます。 http://www.iyc2011.jp/aug-oneday-tsukuba-j.html
8/28	実験教室	第3回 合同開催 科学大好き岡山クラブ 電気が通るプラスチックをつくろう	「科学Tryアングル岡山」	岡山県岡山市	60	一般市民、中高生、小学生	2000年ノーベル化学賞に輝いた導電性プラスチックの合成と、導電チェッカー「とおる君」の工作を行って、電気が通る不思議なプラスチックの魅力に迫る。 *「科学Tryアングル岡山」(岡山大学・岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・津山工業高等専門学校) http://www.iyc2011.jp/aug-kagakudaisuki-j.html
8/29-11/6	展示会	「化学と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」	独立行政法人 国立女性教育会館	埼玉県比企郡	3,100	中・高生、その他一般	国立女性教育会館平成23年度女性アーカイブセンター企画展示:ノーベル化学賞を受賞した女性や、現在理工系の分野で活躍する日本の女性のキャリア形成について、また、近代から現代までの日本の化学研究の歩みと女性たちとの関わりについて紹介します。 http://www.iyc2011.jp/aug-women-j.html
8/30	講演会	日本の化学業界俯瞰～化学業界専門紙編集者による解説 日本化学会第5回関東支部大会(2011)特別講演	日本化学会関東支部	東京都 小金井市	50	高等教育機関/中等教育機関の化学関係教職員と学生、化学系企業関係者、一般市民など	日本化学会の関東支部所属者を主な対象とする化学集会の特別企画講演として、化学専門家が広い視野を有しつつ専門的な知識やスキルを用いた仕事を遂行できるよう、学術的・技術的素養に加えて、化学業界を俯瞰的に捉えるべく、「日本の化学業界俯瞰」を主題に化学業界専門紙編集者による解説講演を行う。演題:国際競争条件の変化と日本企業の戦略 講師:(前化学工業日報社化学経済主幹・日本化学会)瀬田 博 http://www.iyc2011.jp/aug-birdeye-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
8/30-8/31	講演会	化学企業の現業を知ろう 代表的業種の企業の社員による主幹事業の解説 日本化学会第5回関東支部大会(2011)特別講演	日本化学会関東支部	東京都 小金井市	50	教育関係者 学生 化学者・ 科学技術者	日本化学会の関東支部所属者を主な対象とする化学集会の特別企画講演として、化学専門家が広い視野を有しつつ専門的な知識やスキルを用いた仕事を遂行できるよう、学術的・技術的素養に加えて、化学業界を俯瞰的に捉えるべく、「化学企業の現業すなわち主幹事業の実際」を主題に化学業界現役社員による解説講演を行う。演題:化学企業の現業を知ろう代表的業種の企業の社員による主幹事業の解説 http://www.iyc2011.jp/aug-business-j.html
8/30-8/31	研究発表会	日本化学会第5回関東支部大会(2011)	日本化学会関東支部	東京都 小金井市	800	一般市民 化学者・化学技術者 教育関係者 大学生	日本化学会の関東支部所属者を主な対象とする化学集会。化学者が広い視野を有しつつ専門的な知識やスキルを用いた仕事を遂行できるよう、学術的・技術的発表に加えて、化学業界俯瞰、化学教育、にも重点を置いた構成としている。 http://www.iyc2011.jp/aug-kanto-j.html
8/31	シンポジウム	国際化学オリンピックを通して考える日本の理科教育 日本化学会第5回関東支部大会(2011)併催企画	日本化学会関東支部	東京都 小金井市	50	一般市民 化学者・化学技術者 教育関係者 大学生	日本化学会の関東支部所属者を主な対象とする化学集会の併催企画として、2010年の第42回国際化学オリンピック日本大会で得られた化学教育に関する国際的な情報を基にした化学および理科の中等教育における教育のあるべき姿およびそこに至る具体的な方法についてパネル討論する。特に北米のアドバンスドプレースメントと欧州の国際バカロレアプログラムの内容を踏まえて、我が国で来年度(2012年度)施行される新指導要領について考える。 http://www.iyc2011.jp/aug-education-j.html
9/4	講演会	太陽光エネルギー変換の現状と未来	光化学協会	宮崎県宮崎市		市民、高校生、 学生など	宮崎は日照時間が日本で二番目に長い、太陽があふれる地域です。この地域の特色を生かして、太陽光発電所・ソーラーパネル製造工場が誘致されてきています。そこで、世界化学年を記念して、未来のエネルギーを考える講演会を開催します。 http://www.iyc2011.jp/sep-solarenergy-j.html
9/8	シンポジウム	第24回秋季シンポジウム 合同セッション 世界化学年記念ーセラミックスのケミカルプロセス	日本セラミックス協会	北海道札幌市	200	化学者、科学技術者、教育関係者、大学生	日本セラミックス協会秋季シンポジウムの合同セッションとして、セラミックスのナノ構造制御、低環境負荷プロセス、反応場制御技術など、セラミックスの合成化学の分野で活躍している研究者を国内外から招聘し、未来のセラミックス化学について討論する。 http://www.iyc2011.jp/sep-ceramic-j.html
9/9-9/10	見学会	UBE Group Thailand 工場見学会	宇部興産株式会社、公益社団法人日本化学会	Bangkok, Thailand	16	第14回アジア化学会議に日本からの参加者	第14回アジア化学会議(2011年9月5日~8日、バンコク)終了後の9月9日~10日に、日本から会議に参加される先生方を招聘して、タイ王国ラヨーン県においてUBE Group Thailand の工場見学会を開催する。 http://www.iyc2011.jp/sep-137ube-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
9/11	講演会 市民講座	2011年電気化学秋季大会 特別講演会・市民公開講座	電気化学会	新潟県新潟市		電気化学会会員および一般	安全と化学という主題で、原子力エネルギーの化学とその安全性について2名の講師からご講演いただく。「原子力安全を支える化学」-核燃料サイクル施設を中心に-日本原燃(株)代表取締役副社長 大和 愛司 氏 「線量低減と水化学」東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所 第一運転管理部 放射線・化学管理グループ 佐藤 勤 氏 http://www.iyc2011.jp/sep-nuclear-j.html
9/11	講演会	小中高校生を対象とした化学講座	ISE 新潟会議 日本実行委員会	新潟県新潟市	200	小・中・高校生、ISE 新潟会議参加者	小中高校生を対象とした化学講座「世界化学年記念特別セッション」により電気化学の科学技術が、工業、エネルギー、環境、保健衛生の分野において、社会にどのような貢献をしているのか、過去・現在・未来に渡り、その重要性和関連性を最新の電気化学トピックスの講演で紹介した。他に9月15日に開催 http://www.iyc2011.jp/sep-kagakukouza-j.html
9/11	講演会 実験教室	キュリー夫人の理科教室と電池コンテスト	社団法人電気化学会	新潟県新潟市	105	小学生・中学生 および保護者	キュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年を記念して国際電池コンテストを行う。ユニークな電池を考えてもらい、口頭発表で紹介してもらい、優秀な作品を表彰する。また、将来を担う若者、子供たちにアピールする(Chemistry-our life, our future)世界化学年IYCテーマ邦訳コンテストとキュリー夫人の人柄と業績を紙芝居で紹介して化学に関する啓蒙活動を行う。 http://www.iyc2011.jp/sep-battery-j.html
9/11-9/25	講演会 実験講座	平成23年度ふくい理数グランプリ	福井県教育委員会	福井県武生市	236	高校生	目的:授業で学習したことをベースに、実生活に関連した課題に取り組むことによって、数学・理科や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等を育成し、理数的能力の向上を図る。内容:高校生を対象とする。3人1組でチームをつくり、チャレンジステージとグランプリ本選を行う。チャレンジステージでは、講義とそれに関する問題に取り組む。問題はチームで解答する。グランプリ本選では、実生活・実社会と関連する内容を題材に、観察・実験を行う問題に取り組む。 http://www.iyc2011.jp/sep-fukuiolympiad-j.html
9/12-9/14	シンポジウム	第5回バイオ関連化学シンポジウム	日本化学会- 生体機能関連 化学部会ほか	茨城県つくば市	570	化学者、教育関係者、大学院生・学部学生	2011年9月12日～14日、つくば国際会議場において、招待講演、一般口頭発表、ポスター発表、懇親会などを行う。全国のバイオ関連化学の研究者、学生による研究発表および討論を行い、ペプチド・タンパク質・酵素、分子認識・超分子・モデル系、遺伝子関連など、幅広いバイオ関連化学のための情報交換の場を提供することで、我が国の当該分野の発展に貢献することを目的とする。 http://www.iyc2011.jp/sep-biosympo-j.html
9/14	シンポジウム	東レ先端材料シンポジウム2011	東レ株式会社	東京都千代田区	4,300	一般市民、化学者・化学技術者、教育関係者、大学生、高専生	有機合成化学・高分子化学・バイオテクノロジー・ナノテクノロジーの各分野における4名のノーベル賞受賞者クラスのH.W.Kroto教授、R.H.Grubbs教授、相田卓三教授、山中伸弥教授を招聘。併催:東レ先端材料展2011 場所:東京国際フォーラム 展示ホール 会期:9/14～9/15 http://www.iyc2011.jp/sep-toraysympo-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
9/16	シンポジウム	日本分析化学会第60年会公開シンポジウム「宇宙を探索する分析化学」	日本分析化学会	愛知県名古屋市	150	一般市民、学生、化学・宇宙科学・生命化学研究者	「はやぶさ」の小惑星からのサンプルリターン等、太陽系惑星探査の成果が続々と得られ、宇宙と生命の関わりが議論されている。本シンポジウムでは、最近および今後の宇宙探査における分析化学技術とその成果等について紹介する。 http://www.iyc2011.jp/sep-utyuu-j.html
9/17	講演会	日本地球化学会年会 市民講演会 環境と宇宙の地球化学	日本地球化学会	北海道札幌市	120	市民、学生など	講演者2名とその講演タイトルは以下の通りである。 1)「地球温暖化の歴史と未来」大場 忠道 北大名誉教授 2)「惑星探査機「はやぶさ」によりわかりつつある新しい太陽系像」坂本 尚義 北大教授 http://www.iyc2011.jp/sep-geo-cosmo-j.html
9/17	講演会 実験講座	大人のための化学実験教室	法政大学自然科学センター	東京都千代田区	50	大学生以上、参加者層：市民、小・中学校教員	一般市民の科学リテラシーの向上を目的とする。高校の化学実験授業のテーマなどを用いて、科学の面白さや大切さを市民に広く知ってもらおう。テーマ「ダニエル電池」 http://www.iyc2011.jp/may-otonayouzikken3-j.html
9/18	講演会 実験教室	世界化学年「キャット・ケム実験室で触媒を体験ー社会を支え、豊かにする触媒ー」	触媒学会、日本化学連合	北海道札幌市	89	小学生	触媒体験ーキャット・ケム実験室ーを北見での触媒討論会の直前に札幌で開催する。実験や体験活動を通して触媒化学本来のおもしろさに触れてもらうこと、および私たちの日常生活に不可欠な化学と触媒の働き、エネルギー環境技術における化学と触媒の役割を知ってもらうことを目的として、実際の触媒を利用した体験、実験および展示会を開催する。 http://www.iyc2011.jp/sep-catchem-j.html
9/20	シンポジウム	2011日本放射化学会年会・企画セッション「世界化学年・放射化学100年の歩みと今後の展望」	日本放射化学会	長野県長野市	150	一般市民、化学者・科学技術者、教育関係者、学生	キュリー夫人の業績は放射化学という学問分野を創出した。放射化学100年の歴史を振り返りながら、放射化学の社会への貢献や他の研究分野への波及、さらには今後の展望などを議論する企画セッションを開催する。 http://www.iyc2011.jp/sep-radiochem-j.html
9/23-12/11	展示会	企画展「化学者展ーニッポンの近代化学の夜明けー」	国立科学博物館	東京都台東区	120,690	主に中学生以上	江戸時代末期に欧米の科学技術を取り入れ始めた日本において急速に進歩した日本の化学研究の軌跡を歴史資料を通して探り、先人たちに思いを馳せながら、今後のあり方を探る。また、化学研究において、同時代に生きる人々との交流が重要な役割を果たしていることを紹介する。 http://www.iyc2011.jp/sep-chemists-j.html
9/23-12/27	展示会	かはくでカガク反応！シリーズ2011「世界化学年クイズ&スタンプラリー」	国立科学博物館	東京都台東区	4,443	全ての来館者	国立科学博物館では世界化学年にのっとり、2011年秋から「化学」にまつわる展示を多数開催する。これらの各展示の意図や化学への理解を深める第一歩としてクイズ形式のスタンプラリーを実施する。 http://www.iyc2011.jp/sep-quiz-j.html
9/28	講演会	世界化学年記念公開シンポジウム。化学が未来をリードする条件は？	日本化学会	東京都文京区	450	一般市民、化学関係、学生など	「化学が未来をリードする条件は？」をメインテーマに、理化学研究所の野依理 理事長、三菱ケミカルホールディングスの小林社長、経済産業省の上田製造産業局長の基調講演を行う。 http://www.iyc2011.jp/sep-iycsympo2-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
10/1-11/16	シンポジウム	あいちサイエンスフェスティバル2011	国立大学法人名古屋大学	愛知県全域	112,937	ひろく愛知県民	ひろく愛知県内で、サイエンスへの興味と関心を喚起し、人々の交流と議論の場を生み出す。サイエンスイベント月間として実施。会期中に愛知県内で、各種主体が参加企画(サイエンスイベント)を実施する。市民向け講演会「先端科学技術と社会」(会期中の原則土曜日に実施する中心イベント) http://www.iyc2011.jp/oct-festival-j.html
10/7-10/17	展示会	特別展示「祖国から見たマリー・キュリー」	名古屋大学 物質科学国際研究センター	愛知県名古屋市	400	一般市民、化学者・化学技術者、教育関係者、大学生	19枚のポスターを通し、女性として、母として、化学者として生きたマリー・キュリーの人生をポーランドからの視点で紹介するポスター展。キュリー一家の人々、娘達、そしてマリー自身の貴重な写真が見られます。 http://www.iyc2011.jp/oct-mariecurie-j.html
10/10	講演会 実験教室	触媒学会「世界化学年記念事業」「キャタリンスクエアin鳥取 触媒ってなあに?」	触媒学会西日本支部	鳥取県鳥取市	70	一般市民、大学生、中高生、小学生	触媒学会西日本支部の教育事業の一環として、触媒に関する展示、演説、実験、体験を行う。鳥取大学風紋祭の期間中に行い、対象は主に小中学生とその保護者、大学生。 http://www.iyc2011.jp/oct-catstottori-j.html
10/27-10/28	シンポジウム	化学工業日報社「世界化学年」記念シンポジウム・講演会	株式会社化学工業日報社	東京都千代田区	1,100	産業界、大学・研究機関関係者、学生・生徒、一般消費者など	世界化学年における統一テーマ“Chemistry—our Life, our Future”に賛同し、化学および化学産業の振興と社会への普及・理解を進めることを目的に開催する。化学に対する社会の理解増進にあたっては、産官学の関係者に広く参加を呼びかけ、付設展示などを通じ幅広く対話の場を設けることとする。 http://www.iyc2011.jp/oct-chemicaldaily-j.html
10/30	研究発表会	第8回高校化学グランドコンテスト	大阪市立大学、大阪府立大学、読売新聞大阪本社	大阪府堺市	300	一般市民 教育関係者 中学生	本事業は、高校の化学クラブの自由課題や化学課程の課題研究等で行っている学習研究活動を支援し、高校生自らが自主的な研究活動を楽しみながら化学における創造力を培い、将来、化学を好きになる人間を育成する。また、高校生に研究成果を発表する公の場を提供し、優れた研究発表およびグループを表彰することで学習意欲の向上につなげ、大学として社会に貢献することを目的とする。 http://www.iyc2011.jp/kagakucontest-j.html
11/1-11/6	展示会	化学切手シートの発行と化学切手展開催	化学切手同好会	東京都	12,000	一般市民、化学関係者	「日本の化学」のフレーム切手シートの発行と「化学切手展」開催。化学切手シートを発行し流通させ関心を高めて、一般社会に「日本の化学」「化学知識」の普及促進を図る。「化学」を身近なものに。展示会開催により、一般市民、化学関係者へ「日本の化学」への興味喚起、再認識を図る。デザイン(案):日本のノーベル化学賞学者、日本の化学切手復刻、宇田川榕庵と舎密開宗、など。規模:千シート発行。その他12/1-12/14にも開催(水戸市) http://www.iyc2011.jp/nov-kagakukitte-j.html
11/3	講演会 実験講座	化学への招待—化学実験を体験しよう(福岡教育大学)—	福岡教育大学	福岡県宗像市	50	小学生	化学の体験実験(5テーマ) ・色が変わる化学マジック ・いろいろな色素を分けてみよう ・コンブの成分から人工イクラをつくらう ・水溶液から結晶を作って熱を取り出そう! ・電気ペンで絵を描こう http://www.iyc2011.jp/nov-fukuoka-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
11/5	講演会	化学への招待ーすぐれもの有機材料ー	日本化学会東海支部	愛知県名古屋市	95	一般市民、化学者化学技術者、教育関係者、大学生、中高生	現在注目を集めている有機ELや色素増感太陽電池に焦点をあてて、すぐれもの材料をみつけ、創り出すところから、それを実用化するまでの研究活動の様々な楽しさ、やりがい、苦労を大学と企業の研究者にお話しいただきます。有機ELや太陽電池の実物も展示予定です。 http://www.iyc2011.jp/nov-superorganic-j.html
11/5	講演会	科学ライブショー「ユニバース」	日本科学技術振興財団・科学技術館	東京都千代田区	317	科学技術館来館者一般	科学技術館において毎週開催している最新の科学の話題を紹介する科学ライブショー「ユニバース」に、化学関係のゲストスピーカーを招いてそのご研究についてお話し頂く。その他11/12, 11/19, 11/26にも開催 http://www.iyc2011.jp/nov-universe-j.html
11/5	実験講座	出前実験室	市原市	市原市	330	小学生	日本化学工業協会とその会員企業・団体が参加予定。 http://www.iyc2011.jp/nov-153ichihara-j.html
11/6-11/8	国際会議	FIBER International Symposium	甲南大学先端生命工学研究所	兵庫県神戸市	40	化学者・科学技術者 教育関係者	バイオ分子化学、バイオ分子工学による最先端の化学の発見について、外国の科学者たちと議論する。 http://www.iyc2011.jp/nov-fiber-j.html
11/10-11/11	講演会	石油学会山口大会 JPI-JSフォーラムセッション	石油学会	山口県山口市	400	石油学会に係る学識経験者、学生及び産業従事者	若手研究者である関根氏(早稲田大学)と山本氏(北九州大学)に、それぞれ「低温触媒反応の実現のための電場・放電の応用」、「新規結晶性多孔質材料の合成を目指して」というテーマでJSの研究会の活動報告の講演 http://www.iyc2011.jp/nov-jpijs-j.html
11/10-11/12	シンポジウム	第100回記念有機合成シンポジウム	(社)有機合成化学協会	東京都新宿区	149	産官学の化学関係研究者、学生	ポスター、口頭による通常の研究発表会に加え、記念事業として著名な日本人有機化学者3氏の講演を行う。 http://www.iyc2011.jp/nov-yuukigousei-j.html
11/13-11/15	シンポジウム	第1回CSJ化学フェスター2011世界化学年記念大会ー	(社)日本化学会	東京都新宿区	1,078	化学関係のアカデミア、産業界に属する者 一般市民	(1)最先端の化学と化学技術に関する産学官の交流深耕による化学、化学技術及び産業の発展への寄与とイノベーション強化 (2)化学の成果と未来に向けた化学の貢献努力の社会への発信 第1回目となる今年度は、上記2点を趣旨とし、東日本大震災で顕在化した諸課題に対して化学の果たすべき役割を発信するとともに、世界化学年の趣旨を体現する大会として実施予定。 http://www.iyc2011.jp/nov-festa-j.html
11/14	講演会	第17回名古屋メダルセミナー	名古屋メダルセミナー組織委員会	愛知県名古屋市	280	18~65歳、大学・企業化学関係者、大学院生	国際的に偉大な業績をあげた化学者である米国ハーバード大学のEric N. Jacobsen教授にゴールドメダルを、日本国の有機化学の中核を担う研究者である北海道大学の谷野圭持教授にシルバーメダルを贈り、同時に講演会を開催する。 http://www.iyc2011.jp/nov-medal-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
11/16-11/18	展示会 講演会	INCHEM TOKYO 2011	化学工学会、 日本能率協会	東京都江東区	65,831	一般市民、 化学・科学技術者	「グリーン・イノベーションを目指して」を主テーマとし、「グリーンプロダクション」「イノベーションプロダクト」「スマートエンジニアリング」「水イノベーション」「創エネ・省エネ」の各ゾーンを設けて、最先端技術・製品を展示紹介し、会場内での「産学官マッチングフォーラム」では最先端技術の講演とポスター発表を行い、広く化学産業・化学機械の普及と振興に寄与する。 http://www.iyc2011.jp/nov-inchemtokyo-j.html
11/17	講演会	ヨウ素発見200年記念 講演会	ヨード工業会、 ヨウ素学会	千葉県茂原市 道表	150	一般市民 化学 者・化学技術 者 教育関係 者 大学生	ヨウ素は生物の必須元素であり医薬品、殺菌剤から電子材料まで幅広く利用されている。ヨウ素発見200年を記念して、ヨウ素の主要生産地である茂原で講演会、企業展示、見学会を開催します。 http://www.iyc2011.jp/nov-I200th-j.html
11/18	シンポジウム	第14回 ヨウ素学会シン ポジウム—ヨウ素発見2 00年記念—	ヨウ素学会、千 葉大学	千葉市稲毛区 弥生町	250	化学者・化学技 術者 教育関 係者 大学生	ヨウ素に関連した基礎研究、応用研究、産業利用まで広範な分野をカバーする研究報告会。専門分野や年代を超えた異分野、異業種間の活発な討論や情報交換を行い、ヨウ素の科学と技術の進歩、我が国の産業の発展に貢献することを目的とした行事。 http://www.iyc2011.jp/nov-Iscience-j.html
11/19	シンポジウム	電気化学会 平成23年度 産官学フォーラム in 東 京	(社)電気化学 会	東京都目黒区	53	一般市民、化 学者・化学技術 者、教育関係 者、学生	エコマテリアル、レアメタル回収など元素戦略と密接に関係する話題を取り上げ講演頂き、元素戦略の今後の展望を議論する。 http://www.iyc2011.jp/nov-element-j.html
11/19	実験講座	大人のための化学実験 教室	法政大学自然 科学センター	東京都千代田 区	50	大学生以上、 参加者層：市 民、小・中学校 教員	一般市民の科学リテラシーの向上を目的とする。高校の化学実験授業のテーマなどを用いて、科学の面白さや大切さを市民に広く知ってもらおう。テーマ「香りの化学」 http://www.iyc2011.jp/nov-otonayouzikken4-j.html
11/19-11/20	講演会 実験講座	世界化学年 Catalysis Park 2011「触媒ってなあ に？」	触媒学会	東京都江東区	1000	小学生から一 般市民まで	「触媒ってなあに？」というサブタイトルにある通り目で見て、触れて、実験して、五感で触媒の効果を体感する企画です。人類を救った触媒から、環境・エネルギーの未来を創り出す触媒まで、触媒のすべてを見せます。 http://www.iyc2011.jp/nov-catalysispark-j.html
11/21	シンポジウム	LANXESS Rubber Day Japan	ランクセス株 会社	東京都港区	250	自動車関連の 研究者、関連 省庁、大使館、 ドイツ関連団体 等	合成ゴムをテーマに行われる、終日のシンポジウムです。「環境対応型車社会を推進する技術イノベーション」をテーマに、次世代のモビリティ、環境関連動向と持続可能性、合成ゴムの技術イノベーション、未来に向けた最先端の研究、そして日本市場に関連するその他さまざまな課題について議論いたします。 http://www.iyc2011.jp/nov-lanxess-j.html
11/23-11/27	展覧会	「きみたちの魔法—化学 「新」発見」展	日本化学会	東京都江東区	7,000	市民、化学関 係、学生など 小・中・高生、 一般	若い世代に、化学の美しさや楽しさを感じる体験を提供し、社会のために化学が大切な役割を果たしていることを伝えるために、化学をテーマとした展覧会を開催する。これにより、化学をテーマとした展示が全国の科学館で増えるきっかけとする。 http://www.iyc2011.jp/nov-yourmagic-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
11/23-12/24	実験講座	大人の化学クラブ2011	大阪市立科学館	大阪府大阪市北区	中止	18歳以上、一般市民	大阪市立科学館で毎年行われている大人のための化学実験教室。大人のたしなみの一つとしての「香りの化学」と「メッキの化学」について実験を行う。 http://www.iyc2011.jp/nov-chemistryclub-j.html
11/26	シンポジウム	社団法人高分子学会 世界化学年記念シンポジウム	社団法人 高分子学会	神奈川県横浜市	414	中高生 一般市民	世界化学年を記念し、「化学」の素晴らしさ・可能性を広く学生や一般の方にお伝えするためにシンポジウムを開催いたします。日本から生まれ、今、世界にはばたこうとしている技術とその将来像について、世界的にご活躍の研究者の方々にご講演いただきます。 http://www.iyc2011.jp/nov-IYCsympo-j.html
11/26-11/27	実験教室	子ども化学実験ショー 世界化学年スペシャル	「夢・化学-21」委員会	東京都江東区	12,000	主に小学生	実験を通じて化学の不思議や面白さを体験してもらい、化学に興味を持ってもらうための実験体験型のイベント。対象は、主に小学生。日本化学工業協会の会員企業15社と日本化学会の先生方などが、それぞれ実験教室や実験ショーを企画・実演 http://www.iyc2011.jp/july-dreamchem-j.html
11/27	記念式典	東京大学理学部化学科 「化学教室」創立150周年 記念事業	東京大学理学部化学科化学教室雑誌会	東京都文京区	310	化学科卒業生および現役の学生	東京大学理学部化学科は2011年に創立150周年を迎える。化学科卒業生および現役の学生が集い記念祝賀会を開催する。祝賀会を通じて、共有財産である化学に対する理解を増進させ、若手を啓発・育成 http://www.iyc2011.jp/july-tokyouniversity-j.html
11/28	市民講座	市民公開講座 第91回 分子科学フォーラム	分子科学研究所	愛知県岡崎市	100	一般市民、学生 教育関係者	公立はこだて未来大学の中垣俊之教授を講師とし、「粘菌の賢さを探る」について、一般向けに分かりやすくお話しいただく。 http://www.iyc2011.jp/nov-molesci-j.html
12/1-12/2	研究発表会	第23回エラストマー討論会	日本ゴム協会	福岡県北九州市	165	化学者・化学技術者 大学生 教育関係者	エラストマー・ソフトマテリアルの高性能化、高機能化および環境問題等に関する研究発表および討論を通してエラストマー/ソフトマテリアルの化学および技術に対する理解をより一層深める。 http://www.iyc2011.jp/dec-elastmer-j.html
12/3	対話集会	レスポンシブル・ケア 川崎、千葉、鹿島地区 地域対話	一般社団法人日本化学工業協会	川崎市、市原市、鹿島市	312	一般市民	レスポンシブル・ケア 川崎、千葉、鹿島地区 地域対話 その他2/8(鹿島)、2/18(千葉)にも開催 http://www.iyc2011.jp/dec-143kawasaki-j.html , http://www.iyc2011.jp/feb-139chiba-j.html , http://www.iyc2011.jp/feb-140kashima-j.html
12/4	講演会 実験教室	触媒学会「世界化学年記念事業」 「キャタリシス スクエアin奈良 触媒ってなあに?」-グリーン・イノベーションを可能にする化学技術-	触媒学会(ファインケミカルズ合成触媒国際会議2011組織委員会)	奈良県奈良市	128	市民、化学関係、小中高生・大学生など	ファインケミカルズ合成触媒国際会議2011の開催に際し、基調講演やビデオ上映、パネル展示、及び簡単なデモ実験を通して、触媒・化学への関心や理解を深めていただくことを目的とした公開行事。対象は主に中高生とその保護者、及び大学生。国際会議の組織委員や共催の学会に所属する教員が中心となって企画・実施を担当する。 http://www.iyc2011.jp/dec-catsnara-j.html

表 我が国の世界化学年記念事業

日付・期間	カテゴリー	事業名	主催者	開催地	参加者数	対象	概要(詳細は末尾のURLをご参照下さい)
12/5	講演会	日本学士院E.J.Corey客員来日記念講演会 RIKEN Honorary Fellow 特別講演	日本学士院、独立行政法人理化学研究所	東京都台東区	200	一般、学術関係者	日本学士院による来日を記念する講演会及び理化学研究所によるRIKEN Honorary Fellow授与を記念する特別講演会の開催 http://www.iyc2011.jp/dec-corey-j.html
12/11-12/15	国際会議	“International Symposium on Surface Science – Towards Nano-, Bio- and Green Innovation”	(社)日本表面科学会	東京都江戸川区		市民、化学関係、学生	表面科学に関する国際会議を開催する、ならびに同会議での特別セッション“International Year of Chemistry Special Session”の開催 http://www.iyc2011.jp/dec-surface-j.html
12/17	パネル討論会	世界化学年フォーラム～Chemistry – our life, our future: 化学からのメッセージ～	世界化学年日本委員会	京都府京都市	1,000	高校生中心、一般市民、化学関係者、学生など	内閣府主催「科学・技術フェスタ in 京都2011」(12月17-18日)の中で、世界化学年フォーラムを開催する。世界化学年2011を新たなスタートとして、ノーベル化学賞受賞者 野依良治 理化学研究所 理事長の特別講演と高校生世代を交えたパネルディスカッションを通じて、化学の未来へ向けたメッセージを発信する。 http://www.iyc2011.jp/dec-IYCFForum-j.html
12/17	講演会	世界化学年クロージングイベント「宇宙化学講演会」	大阪市立科学館	大阪府大阪市	165	一般(中学生以上)、市民	化学と天文学、かけ離れた分野の研究が今ひとつになり、宇宙の真理に迫れるようになりました。世界化学年のフィナーレとして、化学の目で見た宇宙のほなしをしましょう。1.「元素、化学、そして宇宙」2.「はやぶさが持ち帰ったイトカワ粒子の分析からわかったこと」 http://www.iyc2011.jp/dec-utyukagaku-j.html
12/19	国際会議	神戸大学 国際シンポジウムWomen in Science and Education	神戸大学	兵庫県 神戸市	120	市民、化学関係、学生	Women in Science and Education というテーマで女性化学者のエンパワーメントをめざした国際シンポジウムを開催する。講師として、ユネスコの男女共同参画担当局長コラット氏、2006年アメリカ化学会会長のアン・ナリー教授(キャメロン大学)、界化学年2011女性化学賞受賞者 相馬芳枝氏(神戸大学特別顧問)の3名を招き、男女共同参画の推進に関する講演と質疑応答を行い、交流を図る。 http://www.iyc2011.jp/dec-kobesympo-j.html
12/23	講演会	サイエンティスト・トーク「ノーベル化学賞2011 これが準結晶だ」	日本科学未来館	東京都江東区	60	中学生以上の一般市民	今年のノーベル化学賞のテーマは準結晶。「結晶」でも「非結晶」でもない、かつては「存在するはずがない」と考えられていた物質です。その常識破りの発見は、私たちに「秩序」とは何かを問いかけます。 http://www.iyc2011.jp/dec-scientist-j.html
12/26	講演会	秋田土壌浄化コンソーシアム 平成23年度教育・啓発事業 子ども科学教室「土の化学」	NPO法人 秋田土壌浄化コンソーシアム	秋田県秋田市	35	小学生(4年～6年)及び児童の保護者等	環境問題に対する意識向上と化学への興味を引き出すことを目的に、小学校高学年児童を対象として、実験型科学教室を実施する。土、岩石、腐葉土などについて、見て触ったり、化学分析を通して、様々な機能や特徴を持つことを伝える。 http://www.iyc2011.jp/dec-remediation-j.html
1/28	講演会	世界化学年記念 中高サイエンスフェスティバル及び 世界化学年記念講演会	さいたま市青少年宇宙科学館	さいたま市浦和区駒場	830	市民、学生など	さいたま市内の中学校・高等学校の8校の科学部が集まり、屋台形式の科学的なものづくり等を来館者した市民が体験する催し。合わせて講演会を開催し、市民の科学に対する興味関心を高めるようにする。 http://www.iyc2011.jp/jan-sciencefestival-j.html

3. 世界化学年日本委員会主催・共催事業

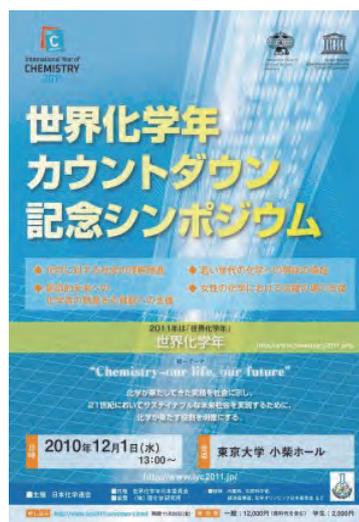
前章で述べたように数多くの事業が実施されたが、その中で世界化学年日本委員会が主催あるいは共催した事業4件について開催日順に、その内容を紹介する。

3-1 世界化学年カウントダウン記念シンポジウム

日本化学連合主催 世界化学年日本委員会共催 理化学研究所協賛
2010年12月1日 東京大学・小柴ホール（東京都文京区）

第一部の記念式典では、御園生誠・世界化学年日本委員会副委員長（日本化学連合会長）の挨拶に続き、内閣府・泉紳一郎政策統括官、文部科学省・合田隆史局長、経済産業省・川上景一審議官、日本化学工業協会・藤吉建二会長から来賓挨拶をいただいた。西出宏之・世界化学年日本委員会実行委員長の「日本における世界化学年行事の紹介」に続いて、2010年度ノーベル化学賞受賞者の鈴木章博士からのビデオメッセージを上映した。

第二部の記念シンポジウム「百年を見据える最先端研究開発」では、日本科学未来館・毛利衛館長の基調講演の後、飛び入り参加いただいた2010年度ノーベル化学賞受賞者の根岸英一博士から



記念シンポジウムポスター



日本科学未来館館長・毛利衛氏の基調講演
池浦富久（三菱ケミカルホールディングス）の各社役員から講演を頂いた。

第三部の国際化学オリンピック日本大会報告では渡辺正教授（東大）の講演と世界化学年大使6名の任命式（1名欠席）を行った。

会場は230名余りの参加者があり、また次世代を担う若い人たちが多く見られ、熱気にあふれ、世界化学年をこれから迎えるのにふさわしいシンポジウムとなった。また、参加者には講演要旨集の冊子、講演資料集のCD及び世界化学年のピンバッジを配布した。

* 関連資料：<http://www.iyc2011.jp/dec-countdown-j.html>

メッセージを頂いた。シンポジウムに戻り、「未来を拓く最先端研究」のテーマで片岡一則（東大）、小池康博（慶大）、瀬川浩司（東大）、水野哲孝（東大）の4先生から、また「未来社会を支える我が社の科学技術」のテーマで中條哲夫（昭和電工）、小川育三（住友化学）、藤田照典（三井化学）、

3-2 キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール

日本化学連合主催 世界化学年日本委員会共催

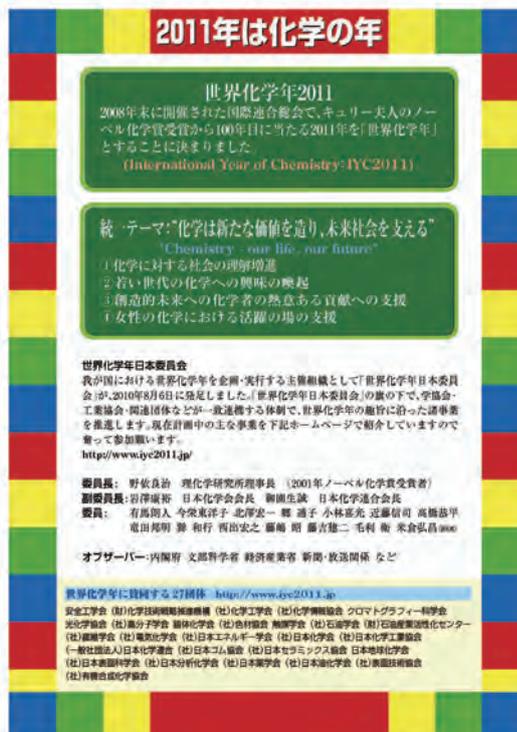
2011年8月3日表彰式 ポーランド共和国大使館（東京都目黒区）

小松隆之・東京工業大学教授を委員長とするワーキンググループが設立され、具体的なコンクールの企画・立案そして実施を行った。また、蟻川芳子・日本女子大学学長を委員長とする最終選考委員会が各賞の選考に当たった。

本読書感想文コンクールは小学生(4~6年生)と中学生を対象に、2010年12月1日から2011年4月18日の間を募集期間として、キュリー夫人の生き方や研究姿勢に感銘を受けた感想文が全国から470件も寄せられた。小学生の部と中学生の部に分けて、それぞれ第一次審査と第二次審査を経て40名の入選者が選ばれ、入選者の中から最終選考委員会において最優秀賞、優秀賞、および審査員特別賞が選ばれた。入選した38人の生徒たちとその保護者を合わせて77人が8月3日駐日ポーランド共和国大使館で開かれた表彰式に招かれ、世界化学年日本委員会委員長の野依良治先生とポーランド共和国ヤドヴィガ・ロドヴィッチ・チェホフスカ特命全権大使より祝福と激励の言葉が送られた。

入賞者全員に賞状と記念品が日本化学連合とポーランド共和国大使館から、記念品が科学技術振興機構から、また、特別賞として2名に盾が化学工業日報社より贈られた。授賞式終了後には、大使館のご好意でレセプションを開催して頂いた。会場の壁にはキュリー夫人に関する展示が行われ、野依日本委員会委員長、チェホフスカ大使も出席され、入賞者やその保護者たちの大満足のなか閉会した。

* 関連資料 : <http://www.iyc2011.jp/curie-j.html>



読書感想文コンクール 募集案内



受賞者記念写真 野依良治・委員長、チェホフスカ大使

3-3 世界化学年記念シンポジウム「化学が未来をリードする条件？」
 日本化学会主催 世界化学年日本委員会共催
 2011年9月28日 東京大学・安田講堂（東京都文京区）

東日本大震災のため延期となった記念シンポジウムが開催された。

産官学を代表する小林喜光・三菱ケミカルホールディングス社長、上田隆之・経済産業省製造産業局長および野依良治・世界化学年日本委員会委員長（理化学研究所理事長）に”化学が未来をリードする条件は？”をテーマにご講演をいただき、我が国の化学をより深化させ、化学産業を強化・発展させ、国際競争に打ち勝ちプレゼンスを高め、社会のニーズに応えるためには何が必要であるか、幅広い視点から問題提起と提言をいただいた。それぞれ以下の演題でご講演いただいた。

- 1) 「持続可能社会の構築に向けて」小林喜光・三菱ケミカルホールディングス社長
 - 2) 「化学産業の果たす役割と化学学界への期待」上田隆之・経済産業省製造産業局長
 - 3) 「化学界と社会の再契約」野依良治・世界化学年日本委員会委員長
- 会場には若者も多く、安田講堂がほぼ満員になる盛会であった。



記念シンポジウム ポスター



上田隆之氏、野依良治氏、小林喜光氏



会場風景

* 関連資料 : <http://www.iyc2011.jp/sep-iycsympo2-j.html>
<http://www.chemistry.or.jp/iyc2011/deta/event/ci11p883-884.pdf>

3-4 世界化学年フォーラム

～Chemistry - our life, our future : 化学からのメッセージ～

世界化学年日本委員会主催

2011年12月17日 会場 国立京都国際会館（京都府京都市）

内閣府などが主催する「科学・技術フェスタ in 京都 2011」が12月17日、18日の2日間、京都市の国立京都国際会館で開催された。世界化学年日本委員会も主催団体のひとつとして参画し、「世界化学年フォーラム ～Chemistry-our life, our future : 化学からのメッセージ～」を開催した。

フォーラムは野依良治・ノーベル化学賞受賞者（世界化学年日本委員会委員長）による特別講演“化学は我らの人生、我らの未来を創る”と高校生世代を交えたパネルディスカッションの2部構成で行われた。

特別講演ではご自身が化学に興味を持つてから研究者になっていった経緯、科学に対する想い、21世紀の我が国のあるべき姿、若い人たちへの期待などを高校生に熱く語られた。

パネルディスカッションは、村井眞二・奈良先端科学技術大学院大学副学長の司会で、野依良治・日本委員会委員長、兵庫県立明石北高校・栗岡誠司校長、滋賀県立膳所高校2年浦谷浩輝、石川県立金沢泉丘高校3年釣本翔太、富山県立高岡高校3年長岡悟史、灘高校2年野々村拡張、計6名のパネリストにより行われ、パネリストと会場の高中生からの質問に野依日本委員会委員長が答え、高校の視点から栗岡校長が答えられた。会場には多くの高校生が熱心に聴講した。中でも、大阪府立天王寺高校、兵庫県立洲本高校、兵庫県立明石北高校からは、京都の会場までバスを仕立てて、多数の高校生に参加いただいた。

*関連資料：

<http://www.iyc2011.jp/dec-IYCForum-j.html>



パネリスト高校生4名



パネリスト野依良治委員長と栗岡校長



記念写真 パネリスト6名と関係者

4. 各界の広報活動

4-1 新聞、テレビなど

世界化学年に関連する新聞掲載記事、テレビ放送番組のいくつかを紹介する。

*新聞関係

2011年1月4日	朝日新聞 日本の化学・巨星の系譜 http://www.iyc2011.jp/news/004asahi.pdf
2011年1月19日	公明新聞「今年は世界化学年」 執筆記事 世界化学年日本委員会 岩澤康裕副委員長 執筆 http://www.iyc2011.jp/news/006koumei.pdf
2011年1月14日	朝日小学生新聞 インタビュー記事 世界化学年日本委員会 西出宏之実行委員長 http://www.iyc2011.jp/news/005asahisyogakusei.pdf
2011年4月	読売新聞 世界化学年特集「化学がつくる私たちの生活 2011」
2011年8月	日本経済新聞「化学が切り開く明日の社会」
2011年8月24日	日刊工業新聞 今年の世界化学年 野依委員長のインタビュー記事
2011年8月29日	化学工業日報 2011世界化学年記念特集号第1部
2011年10月17日	化学工業日報 2011世界化学年記念特集号第2部
2011年10月31日	日刊工業新聞 化学産業特集



公明新聞記事



朝日小学生新聞記事

*テレビ関係

2011年8月6日	NHK ニュース 日本委員会設立および記者会見の様子
2011年9月17日	NHK 海外ネットワーク キュリー夫人特集 「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」の紹介

4-2 雑誌・学協会誌など

世界化学年に関連する雑誌、学協会誌などの記事のいくつかを紹介する。

- 2011年1月 The UNESCO Courier (Jan-March 2011)
ノーベル化学賞受賞の鈴木章先生のインタビュー記事
<http://unesdoc.unesco.org/images/0019/001906/190645e.pdf>
- 2011年1月 Nature vol. 469 number 7328 (6 January)
世界化学年を祝う：「科学の中核」の将来
<http://www.iyc2011.jp/news/110302contents02.pdf>
- 2011年1月 「世界化学年」西出宏之・日本委員会企画委員長執筆
高分子 Vol. 60, No. 1, p40 (2011)
<http://www.iyc2011.jp/news/003koubunsi.pdf>
- 2011年1月 2011年は「世界化学年」千葉泰久・日本委員会実行副委員長執筆
化学と工業 Vol. 64, January, p49 (2011)
<http://www.iyc2011.jp/news/011kagakukai.pdf>
- 2011年1月 2011年「世界化学年」に向けて 西出宏之・日本委員会企画委員長執筆
化学 Vol. 66, No. 1 (2011), p44
<http://www.iyc2011.jp/news/002kagaku.pdf>
- 2011年1月 2011世界化学年-世界が化学一色になる年-
岩澤康裕・日本化学会会長と巽和行・IUPAC 副会長連名
現代化学 No. 1, (2011), p25-26
<http://www.iyc2011.jp/news/001genndaikagaku1.pdf>
- 2011年3月 UNIC Tokyo Dateline January/February 2011 Vol. 74
国際連合広報センター発行 世界化学年の紹介
<http://www.iyc2011.jp/news/110302unictokyo.pdf>
- 2011年9月 「キュリー夫人科学伝記読書感想文コンクール」の表彰式
科学技術振興機構の科学教育誌『Science Window』の秋号
<http://www.jucst.sakura.ne.jp/articlecurie.pdf>



現代化学 No. 1, (2011)



化学 Vol. 66, No. 1 (2011)

4-3 ホームページ、メールマガジンなど

多くの化学系学協会、団体、企業ではホームページのフロントページに世界化学年のロゴを掲載し、2011年は世界化学年であることをPRしていただいた。特に、日本化学会と日本化学工業協会は充実した世界化学年のホームページを立上げ、IUPACのホームページや世界化学年日本委員会のホームページにリンクを張った。



日本化学会ホームページ



日本化学工業協会ホームページ

日本化学会ホームページ <http://www.chemistry.or.jp/iyc2011/index.html>

日本化学工業協会ホームページ http://www.nikkakyo.org/upload_files/iyc2011/

シャープ株式会社のホームページ「みんなでECOファン 家族で！エコロジー」欄に世界化学年を紹介するコラムが掲載された。(2011年1月21日)

<http://www.iyc2011.jp/pdf/110121sharp-ecology.pdf>

また、日本化学工業協会は「世界化学年メルマガ」を2010年11月に創刊し、2012年1月の第14号をもって最終号とした。この間、日本化学工業協会関係者を中心に世界化学年に関連する情報を発信した。

「夢・化学-21」委員会
〔(公益社団法人) 日本化学会、
(一般社団法人) 化学工学会、
(社) 新化学技術推進協会、
(一般社団法人) 日本化学工業協会で構成〕
は子どもたちに遊び感覚で化学に親んでもらい、化学の楽しさや面白さを理解してもらうため、『化学かるた 元素編』を制作した。約110種類の元素のなかから知名度の高い18種類を選び、小学校低学年の子供たちに理解してもらえるよう、それぞれの元素の特長や用途をわかりやすく読み札と絵札にした。



化学カルタ 水素

<http://www.nikkakyo.org/documentDownload.php?id=4233>

5. 世界化学年を振り返って

世界化学年を振り返って：新たなスタート

日本委員会副委員長 岩澤 康裕
(日本化学会会長)



「世界化学年」は、IUPAC からの呼びかけに UNESCO が賛同し、国際連合に提案して総会本会議（2008年12月）で決まったものであるが、私は当時、IUPAC の日本の窓口である日本学術会議化学委員会委員長として、2009年9月、日本化学連合に支援・協力を依頼し、日本化学会をはじめとした化学系主学協会に実際の活動の協力を要請し、一方、2010年3月から日本化学会会長に就任し要請を実行する立場になり、また、同年8月の世界化学年日本委員会設立で副委員長を務めることになったという経緯もあり、「世界化学年」に対しては様々な想いがあります。学協会、産業界、府省庁、関連の皆様方からの多くの協力に対し深く感謝申し上げる次第です。

「世界化学年」を通して、化学の一層の振興と社会への幅広い普及・啓発を図るとともに、科学・技術が一層振興し、持続可能な社会を支える人材の育成と増進を図られ、2011年が力強い将来が構築される輝く化学年となることを目標に掲げました。国内外で2000件以上の「世界化学年」事業が開催されたことは化学の強さと存在感を示せたと思います。しかし、わが国では3月に東日本大震災と福島原発事故が起こり、わが国のサステナビリティ、特に科学・技術力、教育・人材育成力、経済・産業力、政治・政策・施策力等多くの課題・問題が浮き彫りにされました。

人類社会は、有限の地球上における資源の不足・枯渇、エネルギー問題、気候変動や環境劣化、医療・健康、自然大災害等をはじめとする様々な地球規模の問題に直面しております。「世界化学年」を新たなスタートとして、2012年、化学の総力を挙げて国難に対応し、科学・技術力および産業競争力を一層高め、持続可能な社会を支える人材の育成と増進を図り、わが国の力強い将来を構築するため、化学が貢献すべきと考えます。

世界化学年を終えて

日本委員会副委員長 御園生 誠
(日本化学連合会長)



日本委員会副委員長として、また、事務局を務めた日本化学連合の会長として、日本における世界化学年を立派に終えることができたことを心より嬉しく思う。

2009年に事務局を日本化学連合が引き受けることとなり、事業、組織、予算について検討が始まった。ちょうど化学オリンピックの時期と重なり、新たな募金はしないことを前提とせざるを得なかった。そこで、考えたのが、化学連合のメンバーはじめ化学関連の学協会諸団体に呼び掛け、それぞれに世界化学年の趣旨に沿った企画を実施して頂き、日本化学連合がその連絡調整と統一イメージの広報を担うことであった。この基本方針は、関係者の協力があり、結果的にうまく機能したと思う。

これらのことが正式に決まったのが2010年8月。化学年まで時も金もないという視界なしのスタートであった。とりあえず、日本化学連合は、世界化学年の事務局業務と独自事業にその予算と人的資源のほぼすべてを振り向けた。

全体のスタートが遅れていたため、日本化学連合は、相当の無理を覚悟で先陣を引き受け、三つの事業を独自に実施した。まずは、カウントダウンシンポジウム（2010年12月）である。予定していた法人化記念行事を急ぎ、世界化学年向けに変更したのだが、アカデミア、官界、産業界の力強い支援を得て立派なスタートをきることができた。二つめは、キュリー夫人科学伝記感想文コンクールである。2011年の早い時期から全国の小中学生から感想文を募集し、長い選考過程を経て、8月に印象深く素晴らしい表彰式をポーランド大使館で開くことができた。最後は化学コミュニケーション賞である。やはり長い選考を経て、化学と社会のコミュニケーションに貢献した個人・団体を10月に表彰することができた。

この間、多くの団体、個人から数え切れないほどの心温まるご厚意や財政的支援を頂いた。これらの支援がなければ全く不可能な世界化学年であった。改めて深い謝意を表するとともに、よく無事に終了できたものと心底安堵する。

世界化学年を振り返って：企画事業を通して

企画委員会委員長 岩澤 康裕
(日本化学会会長)



企画委員会は、世界化学年企画に関する方針の決定と世界（IUPAC など）との調整を行う目的で設置されました。「世界化学年」は、統一テーマ“Chemistry-our life, our future”の下、幅広い人々に化学に対する理解・関心を深めることが目的です。そのため、企画委員会では企画委員会がトップダウン的に多くの企画事業を開催することは控え、企画委員会としては日本委員会活動としての代表的な企画をひとつ開催する以外は、学協会、企業・産業界、政府省庁、マスメディア等をとおして幅広く市民、特に次世代を担う若者に化学の一層の振興と社会への幅広い普及・啓発を図り、各界企画をできるだけ多く「世界化学年」事業として登録して頂くことを方針としました。日本からの「世界化学年」事業登録はとて多く関係の皆様へ深く感謝いたします。

企画委員会では、内閣府主催「科学・技術フェスタ」（京都国際会議場）にて「世界化学年フォーラム」（野依日本委員会委員長講演、SSH 高校生等を含めたパネル討論会）を企画し、多くの高校生の参加を得て成功裏に終わりました。企画を通して、わが国の若者の輝く将来性に大変感じ入りました。

世界は資源、エネルギー、食糧、医療・健康、自然災害の多発等への対応など人類共通の解決すべき大きな課題を抱えています。特に、わが国は東日本大震災、福島原発事故という近代史上未曾有の大災害に見舞われました。今日的状況の中で科学・技術に期待する声はとて大きなものです。多くの「世界化学年」企画事業により、化学がそれら喫緊の課題解決に多くの役割と貢献が期待されていることが国民に理解され、「世界化学年」が契機となり、次世代を担う若者が化学を目指し、化学で持続的社会的実現と強いわが国を築こうという目標と使命を持つことを期待しております。

「世界化学年を振り返って：国際展開」

企画委員会副委員長 巽 和行
(IUPAC 会長)



「世界化学年」に関する諸事業は IUPAC に設置された IYC Management Committee によって統括され、その事業内容がホームページ <http://www.chemistry2011.org/> に逐次掲載された。統一テーマ “Chemistry-our life, our future” の下、化学に対する社会の理解増進、若い世代の化学への興味の喚起、創造的未來社会への化学の貢献、女性化学者の活躍の場の支援などを目標に、世界各国で一斉に化学の啓発・普及活動が行われた。

IUPAC による公式行事として 1 月にパリの UNESCO 本部で開会式典が、12 月に閉会式典がブリュッセルで盛大に挙行された。また 7 月末～8 月上旬には、IUPAC 総会／大会（ブエルトリコ）開催に合わせて「世界化学年」の様々な行事が企画された。その中で、世界を代表する 2 3 名の女性化学者が「2011 Distinguished Women in Chemistry/Chemical Engineering」として顕彰され、日本からは相馬芳枝神戸大特別顧問が選出された。さらに、国際ネットワーク朝食会「Women Sharing a Chemical Moment in Time」が日本から始まって各国を巡り、IUPAC-UNESCO 共同企画として「水：水質や水浄化の化学」に関する実験が各国の生徒によって実施された。加えて、IUPAC の 8 部会と 3 常設委員会で国際的行事が企画され、米国化学会や英国王立化学会など世界各国の化学会や地域化学連合 (Federation) でも、それぞれ多数の「世界化学年」行事が独自に催された。我が国では世界化学年日本委員会が設置され、化学系諸学会や企業団体等の協力を得て非常に数多くの企画が実施され、その活発な活動内容が IUPAC ホームページを通じて世界に発信された。多くの方々の献身的な尽力に深く感謝している。IUPAC では世界化学年の盛り上がりを楽しみとし、「化学」と IUPAC の隆盛にさらに弾みをつけたいと考えている。

世界化学年を振り返って

実行委員会委員長 西出 宏之
(日本化学連合副会長)



わが国においては、従来より化学関係の学協会・諸団体をはじめ、大学と企業がすでに、世界化学年で掲げる趣旨や目的に沿った活動を長年にわたり地道に積み重ねており、また 2010 年夏に東京で開催された国際化学オリンピックでの高校生の熱気も記憶に新しいところでした。日本委員会発足に向けた準備打合せが続き、いかにこれらの活動を「世界化学年 2011」のベクトルで束ねるか、また強化するか、組織などの案、身の丈に合った（とは言っても背伸びして）新しい目玉となりうる事業・活動の可能性について議論を重ねました。

日本委員会発足後は委員長・副委員長の指差しのもと企画委員会とも密に連携して、実行委員会としては千葉、西出両副委員長、委員皆様の尽力のもと、限られた経済状況の下で工夫に工夫を重ね、前進をいかに図るかに注力しました。事務局とともに、ホー

ムページの立ち上げ・運用、ポスター、ロゴシール作成などの広報の実務などもかなりの仕事量でした。世界化学年に賛同の26学協会の活動も多大でした。一部しか会場を覗きませんでしたが、いずれも活況で、これら幅広いイベントが、延べ参加者50万人につながったと感じました。事務局連絡会を度々もち、一環としての企画・活動報告の依頼とともに、事業全体像の共有化と業務一端をシェアできたことは、化学系学協会の一つの接点として付記しておきます。

活動資金に関しては委員会はこれを持たず、主催団体と事務局が費用の責任もつ方針のもと、勿論ボランティア活動ですがまったくの素手では実行・推進できませんので、支援のお願いが度々重なり、ご不快・ご迷惑をおかけしたことを、この場を借りて深くお詫びいたします。日本化学会、日本化学工業協会、日本化学連合の関係各位の実務分担とお力添え、また石田 裕事務局長の粉骨砕身、ほんとうにありがとうございました。

「世界化学年を振り返って」

実行委員会副委員長 千葉 泰久
(日本化学会 副会長)



2011年の年初に、日本化学会 IYC 委員長として日本化学会誌に「2011年は世界化学年！」と題する拙文を寄稿し、その中で、『社会における化学の貢献や化学の面白さ、不思議さ、素晴らしさが、一般社会にあまり理解されていない現実を変えていきたい』と述べました。この1年間に世界化学年事業として実施された様々なイベントは、まさにこの言葉を実践する、化学界から社会への発信であったと思います。

その中でも特に、日本化学会が日本化学工業協会と日本科学未来館の共催で開催した『きみたちの魔法—化学「新」発見』展は、これまでにない新しい化学の展覧会として私の印象に残っています。これは、まだ化学を習っていない子ども達に、先端化学素材で出来た展示物に触れて遊んでもらうことで、化学の面白さ、不思議さ、素晴らしさを体験してもらおうというイベントでした。3月11日の東日本大震災と原発事故、その影響による夏場の電力逼迫という中で、夏休みから11月に開催が延期されたものの、8日間で7,000人弱の来場者という盛況で、子ども達だけでなくその家族も含めた化学にあまり馴染みのない多くの方々に、化学の魅力や社会貢献を知ってもらう一助になったのではないかと考えています。

このイベントをはじめとして、世界化学年に賛同する多くの学協会で開催された様々な事業により、世界化学年の目的である「化学に対する社会の理解」が進み、「若い世代の化学への興味の喚起」が成されてきたことは、非常に喜ばしいことです。世界化学年が終わった今、このような事業を一過性にするのではなく、世界化学年を契機として今後も継続的に化学の振興と社会への幅広い普及・啓発を図り、輝かしい未来を創造していきましょう。

世界化学年2011を振り返って

実行委員会副委員長 西出 徹雄
(日本化学工業協会 専務理事)



2011年の世界化学年はChemistry-our life, our futureを合い言葉に、世界中で化学をより広く知ってもらい、とりわけ若い人たちに興味を持ってもらえるよう、様々なイベントが行われました。その数は全世界で1350を超えますが、日本でも学会、産業界が力を合わせて実行し、世界化学年事務局に登録したイベントだけでも144に達します。

本来であれば、1年を通じてこうした記念イベントが行われるはずでしたが、3月11日の大震災やそれに続く原発事故による電力不足の問題が発生し、首都圏を中心に春から初秋までのイベントはかなりのものが10月以降に延期となるなど、当初の計画とは大きく変更せざるをえない状態となり、関係の方々に大きな影響が及ぶことになりました。しかしながら、こうした悪条件にもかかわらず、個々のイベント自体は関係者のご尽力により、大きな盛り上がりを見せました。これらを通じて、私たちの毎日の生活がこれまで余り意識されてこなかったものの、実は化学に大きく依存していること、今後日本や世界の直面する資源、エネルギー、水、食糧、医療などの課題に正面から応えていこうとすれば、化学の力なしに有効な解決の道は見出すことができないこと、化学が様々なイノベーションの源泉になることなどについての認識が大きく広がったように思えます。

時あたかも、日本もその他の先進国も経済の成長が滞り、その影響が様々な業種で顕在化しつつありますが、その中でも健闘を続けているのが化学企業だということが化学以外の分野の方々に認識されるようになってきました。消費者から遠い位置にある産業のため、存在感が加工組立産業より小さかったのがこれまでですが、その状況が少しずつ変化してきたように感じます。世界化学年は12月に終わりましたが、IYC2011を契機にして起こった動きは、新しい年を迎え次のステージに向けて継続発展していくことでしょうし、そうあらねばならないと思います。

最後になりましたが、この1年、IYC2011の活動を支えていただいた全ての関係の方々に心から感謝を申し上げます。化学に関心を持つようになり、自らの将来の軌道をアカデミアの化学や化学産業の軌道に重ねて考える若者たちが、どんどん増えていくことを期待していますし、そうしたポジティブな変化を更に発展させる活動を、産業界として今後とも積極的に展開していきたいと思っています。

参考資料1 世界化学年日本委員会設立趣意書

2008年末に開催された国際連合総会は、キュリー夫人のノーベル化学賞受賞から100年目に当たる来年2011年を「世界化学年」(International Year of Chemistry: IYC2011)とすることを決めました。これは日本学術会議化学委員会が国際純正・応用化学連合(IUPAC)からの呼びかけに賛同し、化学委員会 IUPAC 分科会と共に、我が国が共同提案国として国際連合教育科学文化機関(UNESCO)に働きかけ実現したものです。2011年はまた、IUPACが設立されて100年にも当たります。

世界化学年の統一テーマは“Chemistry-our life, our future”であり、化学に対する社会の理解増進、若い世代の化学への興味の喚起、創造的未來への化学者の熱意の支援などを目的としています。

我が国におきましてはこれまで、化学関係の学協会・諸団体をはじめ、大学や産業界が既にこの趣旨・目的に沿った活動を長年にわたり地道に積み重ねてきており、また本年7月には国際化学オリンピックを東京で開催し、高校生を含め広く化学の啓発と人材育成に努めております。これらの事業を継続発展させるために、「2011年を化学の年」として、我が国における化学の一層の振興と社会への幅広い普及・啓発に当たりたいと考えております。

IUPACに対する日本代表機関である日本学術会議(化学委員会)は世界化学年を我が国において推進するため、日本化学連合に対して事業を具体化する準備を付託するとともに日本化学会はじめ化学系学協会に協力を要請しました。

このような経緯のもと我が国における世界化学年を企画・実行する主催組織として「世界化学年日本委員会」を発足させることになりました。

日本委員会の下には企画委員会、実行委員会を設置して、事務局および学協会連携事務局が支援する体制にて、この趣旨に沿った諸事業を「世界化学年」の旗の下に推進したいと思います。「世界化学年」事業を通して、我が国の科学・技術が一層振興し、持続可能な社会を支える人材の育成と教育の増進が図られ、2011年が我が国の力強い将来に貢献する輝く「化学の年」となることを願っております。

2010年5月10日

設立発起人

世界化学年日本委員会委員長(予定) 野依 良治
(独立行政法人理化学研究所理事長)

世界化学年日本委員会副委員長(予定) 岩澤 康裕
(日本学術会議第三部長、社団法人日本化学会会長)

世界化学年日本委員会副委員長(予定) 御園生 誠
(一般社団法人日本化学連合会長)

参考資料2 世界化学年日本委員会委員 (役職は2010年8月時点)

委員長	野依 良治	理化学研究所理事長
副委員長	岩澤 康裕	日本学術会議第三部長、日本化学会会長
副委員長	御園生 誠	日本化学連合会長
委員	有馬 朗人	学校法人根津育英会 武蔵学園長
委員	今榮東洋子	総合科学技術会議議員
委員	北澤 宏一	科学技術振興機構理事長
委員	郷 通子	情報システム研究機構 理事
委員	小林 喜光	三菱ケミカルホールディングス社長
委員	近藤 信司	国立科学博物館館長
委員	高橋 恭平	昭和電工社長 (石油化学工業協会会長)
委員	竜田 邦明	日本化学会副会長
委員	巽 和行	IUPAC副会長
委員	西出 宏之	日本化学連合副会長
委員	藤嶋 昭	日本学術会議化学委員長
委員	藤吉 建二	三井化学会長 (日本化学工業協会会長)
委員	毛利 衛	日本科学未来館館長、宇宙飛行士
委員	米倉 弘昌	住友化学会長 (日本経済団体連合会会長)
オブザーバー	池田富士太	科学新聞社会長
オブザーバー	泉 紳一郎	内閣府政策統括官 (科学技術政策・イノベーション担当)
オブザーバー	織田島 修	化学工業日報社社長
オブザーバー	木村 孟	全国都道府県教育委員会連合会会長
オブザーバー	小出 重幸	読売新聞社編集委員
オブザーバー	合田 隆史	文部科学省科学技術・学術政策局長
オブザーバー	鈴木 正徳	経済産業省製造産業局長
オブザーバー	滝 順一	日本経済新聞社論説委員
オブザーバー	辻 篤子	朝日新聞社論説委員
オブザーバー	中井 和久	毎日新聞社科学環境部長
オブザーバー	長辻 象平	産経新聞社論説委員

参考資料3 世界化学年日本委員会各委員会委員

企画委員会

委員長	岩澤 康裕 (日本学術会議第三部長、日本化学会会長)
副委員長	巽 和行 (IUPAC副会長)
委員	安平次重治 (宇部興産・日本化学会)
	石田 英之 (大阪大学・日本化学会)
	大野 弘幸 (東京農工大・高分子学会)
	川島 信之 (日本化学会)
	下井 守 (東京大学・日本化学会)
	只野 金一 (慶応義塾大学・有機合成化学協会)
	中田 三郎 (日本化学工業協会)
	中村 洋 (日本分析化学会)
	西原 寛 (東京大学・電気化学会)
	藤嶋 昭 (日本学術会議)
オブザーバー	西出 宏之 (実行委員長)

実行委員会

委員長	西出 宏之 (日本化学連合副会長)
副委員長	千葉 泰久 (日本化学会副会長)
副委員長	西出 徹雄 (日本化学工業協会専務理事)
委員	阿部 正彦 (東京理科大学・日本化学会)
	加藤 隆史 (東京大学・日本化学会)
	小林 憲正 (横浜国立大学)
	小松 隆之 (東京工業大学)
	西原 寛 (東京大学・電気化学会)
	長谷川美貴 (青山学院大学)
	守谷 広司 (日本化学工業協会)

参考資料 4 世界化学年日本委員会事務局連絡会

特定非営利活動法人安全工学会
公益社団法人化学工学会
一般社団法人化学情報協会
クロマトグラフィー科学会
光化学協会
社団法人高分子学会
錯体化学会
一般社団法人色材協会
一般社団法人触媒学会
社団法人新化学技術推進協会
公益社団法人石油学会
社団法人繊維学会
公益社団法人電気化学会
一般社団法人日本エネルギー学会
公益社団法人日本化学会
一般社団法人日本化学工業協会
一般社団法人日本化学連合
一般社団法人日本ゴム協会
公益社団法人日本セラミックス協会
日本地球化学会
公益社団法人日本表面科学会
社団法人日本分析化学会
公益社団法人日本薬学会
公益社団法人日本油化学会
一般社団法人表面技術協会
公益社団法人有機合成化学協会

(26団体50音順)

参考資料 5 世界の国別世界化学年事業件数

A	H	P
Algeria (2)	Haiti (3)	Pakistan (10)
Andorra (3)	Hong Kong (8)	Palestinian Territory, (1)
Argentina (8)	Hungary (2)	Papua New Guinea (1)
Australia (31)	I	Paraguay (14)
Austria (4)	<i>India (139)</i>	Peru (4)
B	Indonesia (5)	Philippines (15)
Bangladesh (2)	International (21)	Poland (12)
Barbados (1)	Iran, Islamic Republic Of (8)	Portugal (11)
Belarus (2)	Iraq (1)	Puerto Rico (8)
Belgium (29)	Ireland (15)	Q
Bosnia And Herzegovina (2)	Israel (2)	Qatar (1)
Botswana (2)	Italy (28)	R
Brazil (31)	J	Romania (5)
C	Jamaica (5)	Russian Federation (12)
<i>Canada (50)</i>	<i>Japan (144)</i>	S
Chile (11)	Jordan (2)	Saudi Arabia (6)
China (23)	K	Serbia (1)
Colombia (18)	Kenya (6)	Sierra Leone (1)
Costa Rica (5)	Korea, Republic Of (4)	Singapore (7)
Croatia (2)	Kuwait (8)	Slovakia (6)
Cyprus (2)	L	Slovenia (1)
Czech Republic (10)	Latvia (1)	South Africa (4)
D	Lebanon (4)	Spain (41)
Denmark (2)	Lithuania (1)	Sri Lanka (33)
E	Luxembourg (1)	Sudan (3)
Ecuador (3)	M	Sweden (6)
Egypt (2)	Malaysia (3)	Switzerland (10)
Estonia (2)	Malta (2)	Syrian Arab Republic (2)
Ethiopia (3)	Mauritius (1)	T
F	Mexico (27)	Thailand (7)
Finland (9)	Morocco (2)	Tunisia (1)
France (12)	N	Turkey (12)
G	Nepal (2)	U
Georgia (1)	Netherlands (13)	Ukraine (2)
Germany (24)	New Zealand (9)	United Arab Emirates (3)
Ghana (1)	Nigeria (7)	<i>United Kingdom (154)</i>
<i>Greece (10)</i>	<i>Norway (2)</i>	<i>United States (212)</i>
		Uruguay (6)
		V
		Venezuela (2)
		Vietnam (1)

事業件数の上位 5 ヶ国は太字のイタリック体で表記した。

(データの出典 <http://www.chemistry2011.org/participate/activities?view=country>)

参考資料6 日本における世界化学年活動年表

2008年9月23日	日本学術会議化学委員会より日本化学連合に推進依頼
2008年12月30日	国連総会において2011年を世界化学年にすることを決議
2009年8月26日	世界化学年日本委員会発足準備会開催
2010年3月31日	日本委員会発足準備ワーキンググループ発足。 4月14日, 4月30日, 5月14日, 5月31日, 6月11日, 6月24日, 7月20日, 7月23日, 7月26日, 7月30日, 8月2日, 8月3日開催
2010年5月10日	世界化学年日本委員会設立趣意書及び協力要請書を関係諸 団体に送付
2010年6月11日	第1回事務局連絡会開催
2010年8月06日	世界化学年日本委員会設立および第1回日本委員会開催 世界化学年日本委員会ホームページ立ち上げ
2010年11月9日	第1回実行委員会開催
2010年11月25日	第1回企画委員会開催
2010年12月1日	日本委員会共催事業「世界化学年カウントダウン記念シン ポジウム」(日本化学連合主催)開催
2010年12月24日	第2回事務局連絡会開催
2011年3月3日	第2回企画委員会・第2回実行委員会合同委員会開催
2011年3月26日	第2回日本委員会(東日本震災のため中止)
2011年8月3日	日本委員会共催事業「キュリー夫人科学伝記読書感想文 コンクール」表彰式(日本化学連合主催)開催
2011年8月10日	第3回企画委員会・第3回実行委員会合同委員会開催
2011年9月14日	第4回企画委員会・第4回実行委員会合同委員会開催
2011年11月13日	日本委員会共催事業「第1回CSJ化学フェスタ」(日本化学 会主催)開催(～11.15)
2011年12月17日	日本委員会主催事業「世界化学年フォーラム～Chemistry - our life, our future : 化学からのメッセージ～」開催
2012年3月	「世界化学年2011」報告書発行 世界化学年日本委員会解散。

参考資料 7 世界の主な世界化学年事業

IUPAC による公式行事を含め、主要な事業のいくつかをピックアップし、以下にその概要を紹介する。

2010年12月17日 IYC2011 pre-launch publicity event

Pacificchem 2010 (ホノルル)において、日本化学会、米国化学会ほかの主催で開催され、多数の参加者があり盛会であった。
写真は、左から Prof. Nicole Moreau (IUPAC President),
Dr. Nancy Jackson (ACS President)



<http://www.chemistry2011.org/participate/activities/show?id=5>

http://www.chemistry.or.jp/iyc2011/deta/event/201103_pacificchem.pdf

2011年1月18日 国際ネットワーク朝食会

世界化学年を記念して化学に携わっている多くの女性がネット上で一堂に会した。日本では化学会館でティーパーティを開催した。



<http://www.chemistry2011.org/participate/activities/show?id=380>

<http://www.iyc2011.jp/jan-danzyosannkaku-j.html>

2011年1月27-28日 開会式 (パリ)

世界各国から、科学者はもちろんのこと、学会代表、企業トップ、政府関係者がパリのユネスコ本部に勢揃いした、世界化学年の launch Ceremony である。2日間に及ぶ特別講演や基調講演、パーティーを通して、化学年を祝福した。



<http://www.chemistry2011.org/participate/activities/show?id=1>

http://www.chemistry.or.jp/iyc2011/deta/event/201104_about_iyc.pdf

2011年8月2日 World Chemistry Leadership Meeting (プエルトリコ)

IUPACの総会の中で”世界を代表する23名の女性化学者が「2011 Distinguished Women in Chemistry/Chemical Engineering」として顕彰され、日本からは相馬芳枝氏が表彰された。



<http://www.chemistry2011.org/participate/activities/show?id=198>

<http://www.chemistry2011.org/participate/activities/show?id=1156>

2011年12月1日 閉会式 (ベルギー)

閉会式は世界化学年テーマ”Chemistry - our life, our future”に則り、食料、水、健康、エネルギー、環境という我々が直面している世界的に深刻な問題にとっていかに化学が重要か、ハイレベルな講演者と若手研究者を招いて討論が行われた。写真は閉会宣言を行うフィリップ皇太子。



<http://www.chemistry2011.org/participate/activities/show?id=4>

<http://www.chemistry.or.jp/iyc2011/deta/event/closing-ceremony-report.pdf>

編集後記

準備を開始してから約三年が経過し、ここに本報告書の発行を目前にし、感無量の思いです。

準備段階では、日本化学会、日本化学工業協会、日本化学連合の皆様と 2010 年 6 月、7 月は毎週のように打合せの機会を持って、日本委員会の設立準備に注力しました。8 月に日本委員会発足後は事務局連絡会メンバーはじめ関係各位のご努力下、世界化学年記念事業が順調に進み始めた矢先の 2011 年 3 月に東日本大震災に見舞われました。そのため、多くの行事が延期あるいは中止されましたが、その後夏休みの行事企画によって徐々に盛上りを見せ始め、2011 年 12 月末には 144 件と世界第 3 位の事業登録件数に至りました。

日本委員会主催や共催行事には委員長、副委員長、企画委員会正副委員長、実行委員会正副委員長が多数ご出席いただきました。特に、野依委員長にはこれら 4 行事すべてについて、講演、パネル討論、祝辞、メッセージなどをいただき、世界化学年を大いに盛り上げていただき、感謝しております。特に、小中学生を含めた若い人たちからの人気は絶大なものでした。

一方、日本委員会は資金を持たないでスタートしたため、事務業務の遂行には困難を感じるなか、関係各位のボランティア精神に助けられ、世界化学年が無事終了に至ったことを感謝申し上げる次第です。また、事務局は日本化学連合内に置くことにしたため、両方の業務が錯綜し、関係各位にご迷惑をおかけしたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

2012 年 3 月

事務局長 石田 裕

本報告書は、世界化学年日本委員会ホームページにアップロードしましたので、ダウンロードしてご活用下さい。

URL : <http://www.iyc2011.jp/index.html>

個々の世界化学年事業に関する資料類は電子ファイルの報告書から、アクセスしてご覧になれるようにしました。

「世界化学年 2011」報告書

2012 年 3 月

発行 世界化学年日本委員会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目 5 番地 化学会館

一般社団法人日本化学連合内

TEL 03-3292-6010 FAX 03-3292-6319